

平成 30 年度事業報告書



社会福祉法人 京丹波町社会福祉協議会

平成30年度事業報告

I 総 括

平成30年度は、豪雨や度重なる台風襲来により本町でも大きな被害が発生しました。中でも、7月豪雨では和知地区において土砂崩れや河川が氾濫し、民家への土砂流入や床上・床下浸水が発生し住民の生命が脅かされました。本会では、本町として初めてとなる災害ボランティアセンターを立上げ支援活動を行いました。活動期間中は町内を中心にボランティアの参加を呼び掛けたところ、平日にもかかわらず多くの方々に参加いただき早急な支援活動を展開することができました。これは、住民一人ひとりが被害を受けられた方の思いを他人事とは捉えず、「自分事」として捉えていただいたことが、支援活動につながったものと感じております。

しかし、災害以外の日常生活に目を向けると、全国で孤立、ひきこもり、虐待、貧困・生活困窮といった課題が深刻化しており、本町でも、そのような生きづらさを抱える方々が十分な支援に繋がっていない現状があると思われまます。このような課題をいかに「自分事」として捉え、住民が主体的に支え合えるまちづくりの推進が喫緊の課題と感じております。

このような状況の中で、京丹波町社会福祉協議会では平成28年度より「住民寄り添い型助け合い活動かがやき」による住民同士の相互支援、また、30年度から地域全体での見守るシステムとして「京丹波町見守りネットワーク事業」を進めてきました。かがやきでは活動登録者が65名となり、見守りネットワークでは、町内外55の事業所・商店に登録いただき、徐々に住民や関係機関の方々に地域福祉への意識が高まりつつあることをうれしく感じております。

また、全国的に子どもの貧困が社会問題となっている中で、地域の住民と子どもたちが様々な体験を通して心の成長や相談できる関係づくりとして、下山小学校区を対象に『みんなのひみつきち』（子どもの居場所づくり）事業を月一回実施しました。まだまだ限られた地域・実施回数ではありますが、地域の課題に対応する新しい取り組みとして、協力いただく住民の方と共に更に推進していきたいと考えております。

そして、「全ての住民の心が輝く福祉のまちづくり」の運営理念のもと、地域に密着した福祉サービスの提供を目指して、高齢者・障がい者・児童等のあらゆる分野への支援事業を、町行政や関係機関、地域の住民の方々にもご協力・ご参加いただきながら地域の福祉力向上に向けた活動を展開しましたので、以下のとおり報告いたします。

II 社会福祉協議会運営基盤の強化

1 会員増強運動

社会福祉協議会(以下、社協)は、地域で暮らす住民のみなさんが主体となって運営される民間の団体であり、住民のみなさんに会員となっていただき住民主体の福祉活動を進めていきます。

会費を納めていただくことで、地域福祉の推進に取り組む社協の貴重な財源となり事業の運営やサービスの参加・協力を財政面で支えていただくことになります。

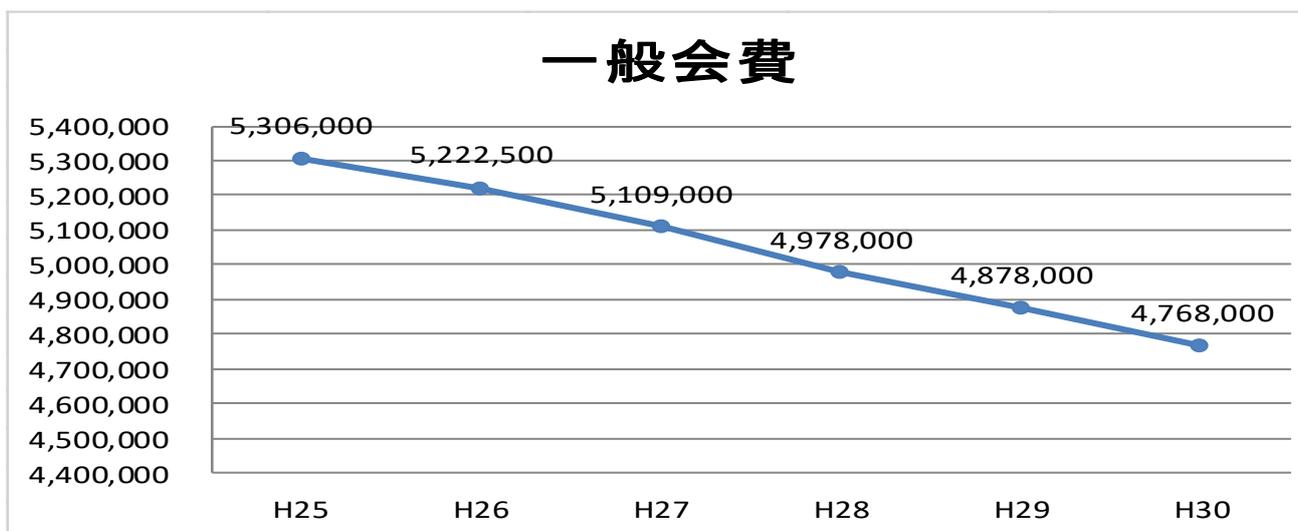
●会費納入状況

会員種別	丹波	瑞穂	和知	町外	合計	備考
一般会員	1,829,000	1,581,000	1,355,000	3,000	4,768,000	成人者：1,000円
特別会員	25,000	190,000	35,000	65,000	315,000	会社・事業所等：5,000円
賛助会員	45,000	0	6,000	0	51,000	福祉施設・団体等：3,000円

一般会費地区ごとの内訳

		H25	H26	H27	H28	H29	H30
丹波	会費	2,101,000	2,032,000	1,997,000	1,940,000	1,898,000	1,829,000
	成人数	6,580	6,452	6,352	6,269	6,165	6,057
	加入率	31.9%	31.5%	31.4%	30.9%	30.8%	30.2%
瑞穂	会費	1,697,000	1,719,000	1,681,000	1,632,000	1,611,000	1,581,000
	成人数	3,979	3,914	3,850	3,793	3,702	3,625
	加入率	42.6%	43.9%	43.7%	43.0%	43.5%	43.6%
和知	会費	1,508,000	1,471,500	1,431,000	1,406,000	1,369,000	1,355,000
	成人数	2,918	2,842	2,771	2,705	2,660	2,602
	加入率	51.7%	51.8%	51.6%	52.0%	51.5%	52.1%
全域	会費	5,306,000	5,222,500	5,109,000	4,978,000	4,878,000	4,768,000
	成人数	13,477	13,208	12,973	12,767	12,527	12,284
	加入率	39.4%	39.5%	39.4%	39.0%	38.9%	38.8%

※一般会費の推移(単位：円)



【成果・課題】

- 一般会費は人口減少に伴い今年度も減少したが、特別会員が9事業所(町外4事業所含む)、賛助会員が1事業所新規加入いただくことができた。

2 法人運営

●会 務

(1) 理事・監事会・・・5回

H30. 5. 22	会長職務執行状況報告、評議員候補者の同意、29年度事業報告・収支決算、第1回評議員会開催、他
H30. 6. 18	評議員選任・解任委員会報告、社協給与規程の変更、社協嘱託職員給与規程の変更、他
H30. 10. 9	会長職務執行状況報告、30年7月豪雨支援活動報告、職員給与規定の変更、他
H30. 11. 30	会長職務執行状況報告、福祉車両入札報告、福祉講演会、30年度補正予算(案)、30年度上半期事業執行状況・予算執行状況の確認、第2回評議員会開催、就業規則の変更、他
H31. 3. 7	会長職務執行状況報告、ゴールデンウィーク中の就業について、30年度第2次補正予算(案)、31年度事業計画・予算(案)、第3回評議員会開催、就業規則の変更、他

(2) 監査会・・・2回

H30. 5. 21	29年度事業及び収支決算についての監査
H30. 11. 22	30年度上半期事業執行状況及び予算執行状況についての監査

(3) 評議員会・・・3回

H30. 6. 12	理事の承認、29年度事業報告・収支決算
H30. 12. 14	30年度補正予算、30年度上半期事業執行状況・予算執行状況の確認
H31. 3. 25	30年度第2次補正予算、31年度事業計画・予算

(4) 三役・管理職会議・・・5回

H30. 4. 26	今後の日程確認、事業報告・収支決算の連絡、就業規則等の変更、社協職員全体研修、他
H30. 5. 14	事業報告・収支決算の確認、監査の確認、他
H30. 6. 19	大阪北部地震の被害状況について、職員採用試験の募集状況について、夏季休暇について、職員全体研修の振返り、他
H30. 9. 7	平成31年4月採用の職員募集について、他
H31. 3. 7	平成31年度に向けて、他

(5) 各種運営委員会

委員会名	丹波	瑞穂	和知	合計
心配ごと相談所運営委員会		1		1
福祉資金貸付委員会	1	0	0	1
ボランティアバンク運営委員会		0		0
理事・監事推薦委員会		2		2
評議員選任・解任委員会		1		1

(6) 管理職(課長)会議・・・12回

H30. 4. 10	職員採用・募集、育児・介護休暇の様式、職員全体研修、29年度事業報告、各課からの報告、他
H30. 5. 10	職員全体研修、29年度事業報告、業務目標シート、各課からの報告、他

H30. 6. 8	職員全体研修振返り、評議員選任・解任委員会報告、理事会の確認、各課からの報告、他
H30. 8. 8	岡山県災害支援について、係長会議に向けて、各課からの報告、他
H30. 8. 22	台風への対応について
H30. 9. 28	警報発令時の事業実施について、職員全体研修、各課からの報告、他
H30. 10. 24	介護人材の確保について、職員全体研修、就業規則の変更、各課からの報告、他
H30. 11. 14	職員募集、職員個人面談に向けた業務振返りシート、各課からの報告、他
H30. 12. 12	年末年始に向けて、ひきこもり支援研修会、きょうと地域福祉活動実践交流会、各課からの報告、他
H31. 1. 23	職員個人面談、ひきこもり支援研修会、登録ヘルパー等介護人材の確保について、ゴールデンウィークについて、各課からの報告、他
H31. 2. 13	非常勤職員の採用について、処遇改善加算、災害ボラセン設置訓練、各課からの報告、他
H31. 3. 13	働き方改革について、地域福祉活動計画策定に向けて、各課からの報告、他

(7) 職員内部研修・・・5回

日時	講師	内容
H30. 5. 27	管理職他	社協全体について ・30年度事業計画、収支予算、昨年度の振返り ・地域福祉活動計画について 各課から業務の説明
H30. 11. 8 H30. 11. 27 H30. 12. 12	南丹警察 山根良樹 警部補	交通安全教室 ・全国と京都府下の交通事故の状況 ・福祉施設での事故事例 ・安全運転を行う上での重要ポイント
H31. 2. 4	担当職員	災害ボランティアセンター運営事前研修
H31. 2. 24	担当職員	災害ボランティアセンター運営研修
H31. 3. 19	担当職員	福祉活動計画策定に向けた職員研修

【成果】

- ・職員内部研修として、社協全体業務の確認、災害ボランティアセンター運営研修、交通安全教室、福祉活動計画策定に向けた研修に取り組み、職員の資質向上を図った。



職員内部研修



全職員対象交通安全教室

【在宅福祉推進事業】

1 福祉サービス利用援助事業

認知症や知的障害、精神障害等により判断能力が不十分な人に対して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理を行う。

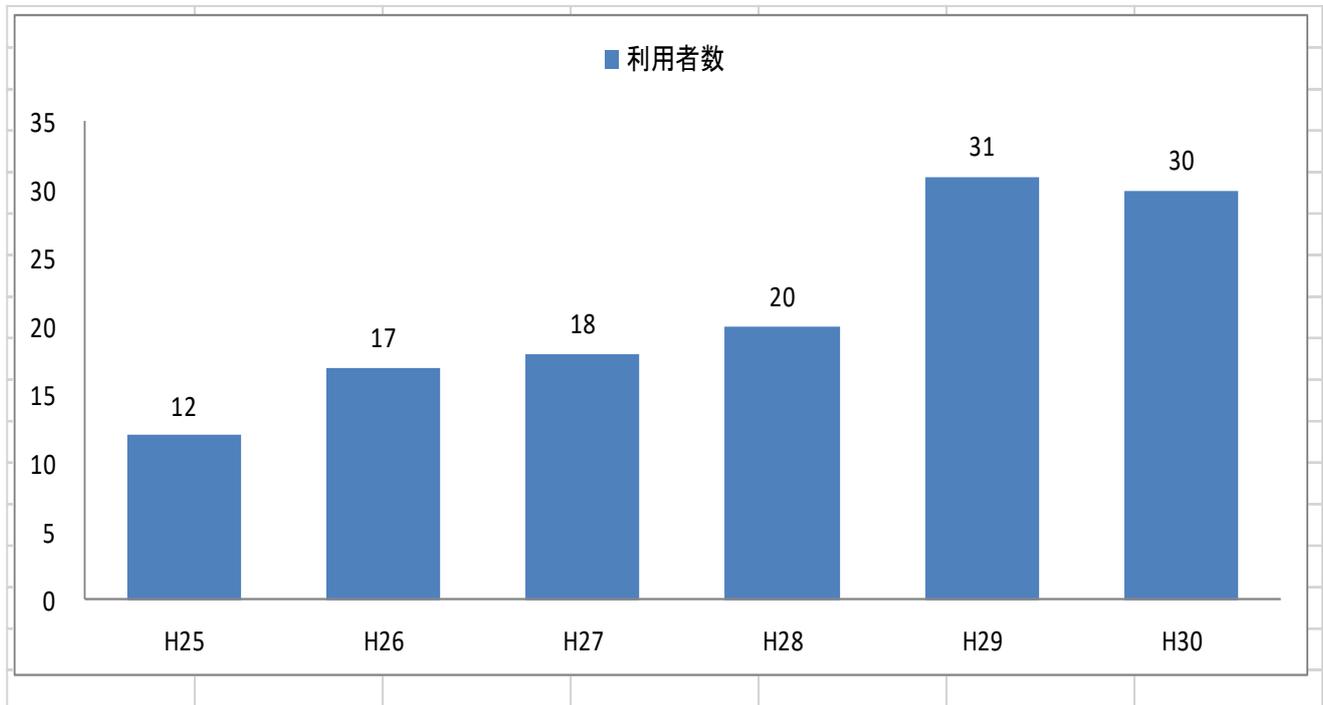
■契約・支援等の件数・・・平成31年3月31日現在

	29年度末契約件数					解約件数	新規件数	保留件数	30年度支援件数					生活保護受給者数	相談継続件数
	認知症	知的障害	精神障害	その他	計				認知症	知的障害	精神障害	その他	計		
丹波地域	11	2	2	1	16	2	2	0	11	2	2	1	16	3	0
瑞穂地域	7	0	2	1	10	2	1	0	5	1	2	1	9	2	0
和知地域	3	0	1	1	5	0	0	0	3	0	1	1	5	0	0
合計	21	2	5	3	31	4	3	0	19	3	5	3	30	5	0

①平成30年度 新規契約者数 → 3名

②平成30年度 解約者数 → 4名

■利用者数（単位：人）



■支援内容

支援内容	丹波	瑞穂	和知	合計	備考
○福祉サービス利用援助	16	9	5	30	福祉サービス利用契約手続き支援
○日常的金銭管理	16	9	5	30	衣食住等の日常経費の管理
○通帳・印鑑の預かり	15	9	4	28	通帳・印鑑の管理

○書類等の預かりサービス	7	6	0	13	年金証書、権利証書等の預かり
--------------	---	---	---	----	----------------

■専門員・支援員研修の開催

専門員・・・9回

研 修 名	開 催 日	内 容
平成30年度福祉サービス利用援助事業専門員新任研修	4/24 (火)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービス利用援助事業の概要及び実務 契約締結ガイドラインの実際 福祉サービス利用援助事業の担当職員として大切にしている視点 (実践報告)
平成30年度福祉サービス利用援助事業第1回専門員担当職員会議及びテーマ別研修会	6/13 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度事業報告及び平成30年度取組み方針の説明等 利用者の思いをともに実現する支援者の視点を学ぶ① (演習・講義)
平成30年度福祉サービス利用援助事業専門員新任研修	8/9 (月)	<ul style="list-style-type: none"> 『私が思う福祉サービス利用援助事業』(講義) 座談会
南丹・乙訓ブロック事例等検討会	8/20 (月)	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討会
第2回専門員・担当職員テーマ別研修交流会	9/19 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 講義及び演習
平成30年度対人援助の基本姿勢・相談面接技術基礎セミナー	10/18 (木)	<ul style="list-style-type: none"> 対人援助を行う上で必要な基本姿勢や相談面接技術の基礎的なセミナー
平成30年度福祉職場におけるケース記録の書き方セミナー	11/9 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉職場での利用者支援で活用できるケース記録の書き方やポイントを学ぶ研修
南丹ブロック生活支援員研修交流会検討会議	10/31 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 1/30の南丹ブロック現任生活支援員研修交流会開催に向けての会議
第3回専門員・担当職員・テーマ別研修交流会	3/14 (木)	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の思いをともに実現する支援者の視点を学ぶ研修会

生活支援員・・・4回

研 修 名	開 催 日	内 容
平成30年度福祉サービス利用援助事業生活支援員新任研修	5/21 (月)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービス利用援助事業の概要と生活支援員の職務について 『生活支援員として思うこと』(実践報告) 利用者との信頼関係を築くために (講義)
・南丹ブロック現任生活支援員研修交流会	1/30 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 南丹ブロック各社協から事例(3事例)を出し事例報告を行った。
・生活支援員現任研修(北部)	3/12 (火)	<ul style="list-style-type: none"> 京都府内の福祉サービス利用援助事業の状況について 依存症当事者支援の活動について 支援記録の意味と伝え方を学ぶ

・傾聴講座（町社協主催）	3/18（月）	・生活支援員活動に必要な傾聴について学ぶ研修会
--------------	---------	-------------------------

【成果・課題】

- ・29年度に多くの新規契約があり、現在の契約件数は30名となっている。
- ・現在の状況は、施設に入所されたり、病院に入院されたりと自宅から離れておられる方が多くなっている。長期的にショートステイを利用して特養入所を待っておられる方も複数人おられ、今後、これらの方が入所されると契約件数は減少することが予測される。
- ・今年度の解約4件の内、3件は特養に入所、1件は家族対応への移行であった。

2 住民寄り添い型助け合い活動かがやき

世帯状況の変化に伴い生活上の困りごとを誰にも相談できず、地域の中で孤立する高齢者や障害者が増えている。また、介護保険法の改正に伴い、介護予防・生活支援の充実等が求められている中、住民の主体的な参加と協力によりお互いさまの気持で助け合う活動の推進を行う。

(1) 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数 (件)	2	6	17	10	12	9	12	11	30	3	4	6	122
新規利用者 数(人)	0	3	4	4	4	4	0	2	14	0	1	1	24
相談件数 (活動 外)	0	3	3	0	0	0	7	6	1	1	2	1	20

(2) 依頼内容

依頼内容	件数	依頼内容	件数
掃除	47	ガラス戸・窓拭き	18
洗濯（畳む、干す）	13	荷物整理	9
草引き	7	調理	7
衣替え・衣類整理	5	ごみ分別	4
障子張り替え	3	エアコン掃除	2
見守り	2	網戸張り替え	1
庭掃除	1	水槽の水換え	1
電球交換	1	人形飾り	1

(3) 登録活動者数

(平成31年3月31日現在)

65名（男性 17名、女性 48名）

【成果・課題】

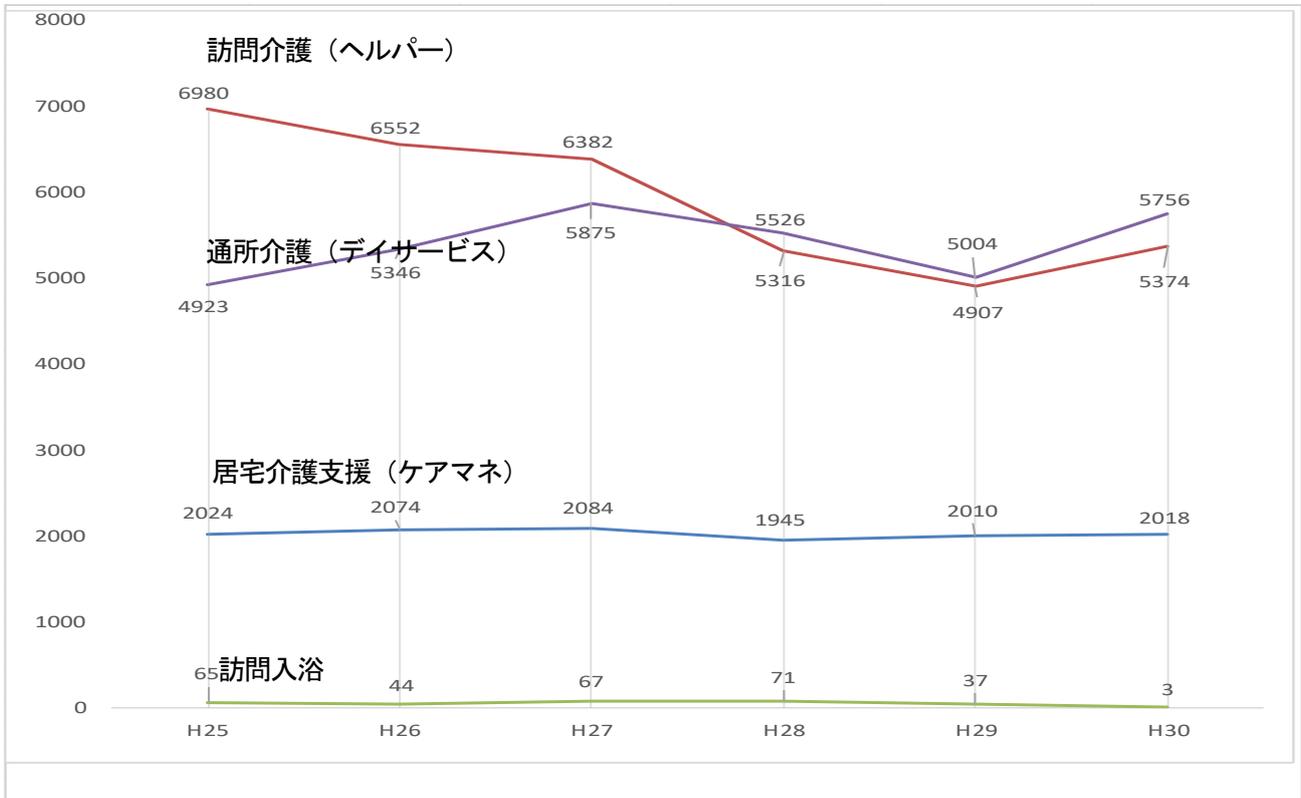
- ・総合事業としての活動（緩和した基準によるサービス）を実施したことにより、活動件数が増えた。
- ・年末お掃除応援隊の取り組みが広がり、新規利用者数が増えた。
- ・見守りや人形飾りなど、活動内容の幅が広がっている。

【高齢者福祉事業】

1 介護保険事業

※利用状況推移（要支援1、2、総合事業、要介護1～5の合計）

- ・ケアマネ（延べ利用者数、単位：人）
- ・ヘルパー（延べ提供回数、単位：回）
- ・訪問入浴（延べ提供回数、単位：回）
- ・デイサービス（延べ提供回数、単位：回）



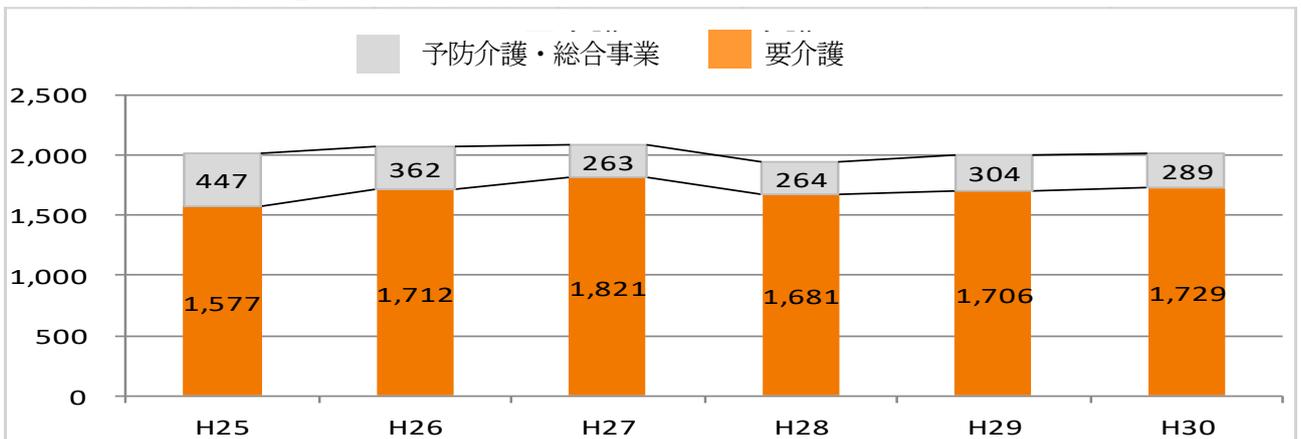
（1）居宅介護支援事業・・・ケアマネジャーによる介護サービス利用の支援

職 種 名	ケアプランセンターほほえみ	備 考
管 理 責 任 者	1名	
ケアマネジャー	6名	1名管理責任者兼務

○高齢者生活支援事業・総合事業（平成28年3月から移行開始）・・・京丹波町委託事業

- 対象者：概ね65歳以上の高齢者で、日常生活上の援助が必要な要支援者
- 内 容：ケアマネジメント

※利用状況の推移（延べ利用者数、単位：人）



■予防介護支援事業・総合事業の実績（総合事業・要支援1・2の利用状況実績）

延べ利用者数 (人)	要支援 1	要支援 2	総合事業	合 計
30 年度	46	159	84	289
29 年度	46	181	77	304
28 年度	54	186	24	264
前年度比較 (%)	100.0	87.8	109.1	95.1
28 年度比較 (%)	85.2	85.5	350.0	109.5

■居宅介護支援事業の実績 (介護 1～5 までの利用状況実績)

延べ利用者数	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合 計
30 年度	546	658	313	187	25	1,729
29 年度	553	568	378	168	39	1,706
28 年度	502	645	359	135	40	1,681
前年度比	98.7	115.8	82.8	111.3	64.1	101.3
28 年度比較	108.8	102.0	87.2	138.5	62.5	102.9

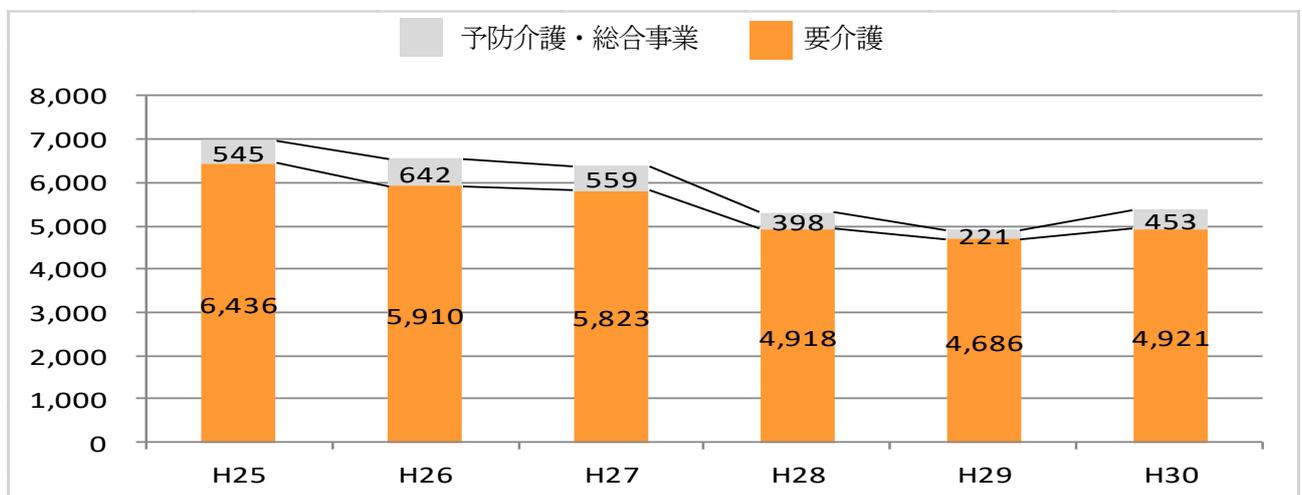
【成果・課題】

- ・課題として、既存の介護サービスに頼り過ぎず、地域のかやインフォーマル支援を取り入れたアセスメントの展開が必要であり、来年度は更に生活支援コーディネーターとの連携を行っていく。
- ・利用者の持つ力や強みを再確認し、活用いただけるよう導いていく支援が必要であり、支援者側においても地域の住民と協働し、他人事ではなく自分事と捉えられるよう住民力の向上や社会資源の構築に向けた取組みとして、包括支援センター・社協地域福祉課とも連携しながら取組んだ。また、相談支援専門員と協働でケース検討することも増えており、常に情報共有し包括的に今後も支援を展開していく。
- ・31年度より特定事業所加算が取れる体制が整い、収益の改善が見込まれ、超高齢社会における利用者支援を積極的に行う。

(2) 訪問介護事業・・・ホームヘルパーによる在宅支援活動

職 種 名	ヘルパーセンターほほえみ	備 考
管理責任者	1 名	
サービス提供責任者	2 名	常勤ヘルパーが兼務
常勤ホームヘルパー	4 名	
登録ホームヘルパー	15 名	

※利用状況の推移 (述べ提供回数、単位：回)



■ 予防訪問介護事業の実績（総合事業・要支援1・2の利用状況実績）

延べ利用者数（人）	要 支 援 1	要 支 援 2	総合事業	合 計
30年度	11	41	74	126
29年度	4	19	34	57
28年度	27	30	50	107
前年度比較（％）	275.0	215.8	217.6	221.1
28年度比較（％）	40.7	136.7	148.0	117.8
延べ提供回数（回）	要 支 援 1	要 支 援 2	総合事業	合 計
30年度	23	170	260	453
29年度	11	72	138	221
28年度	108	111	179	398
前年度比較（％）	209.1	236.1	188.4	205.0
28年度比較（％）	21.3	153.2	145.3	113.8

■ 訪問介護事業の実績（介護1～5の利用状況実績）

延べ利用者数	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合 計
30年度	133	164	127	55	24	503
29年度	148	215	73	82	15	533
28年度	168	228	81	52	9	538
前年度比	89.9	76.3	174.0	67.1	160.0	94.4
28年度比較	79.2	71.9	156.8	105.8	266.7	93.5
延べ提供回数	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合 計
30年度	848	1,384	1,414	1,012	263	4,921
29年度	827	1,854	420	1,423	162	4,686
28年度	948	1,949	896	915	210	4,918
前年度比	102.5	74.6	336.7	71.1	162.3	105.0
28年度比較	89.5	71.0	157.8	110.6	125.2	100.1

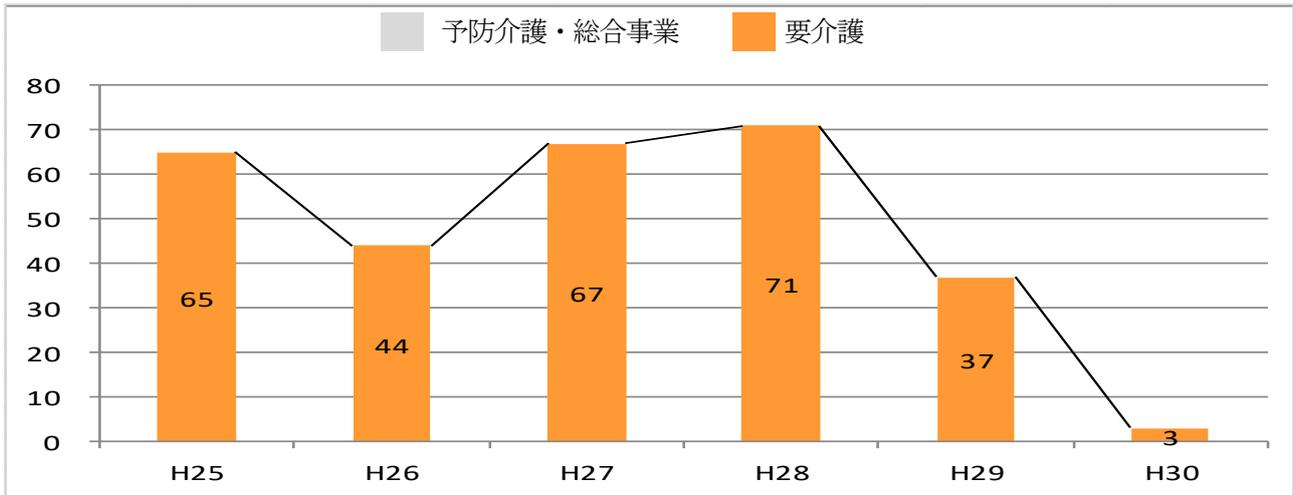
【成果・課題】

- ・介護保険制度改正により、生活援助はひと月における提供回数が定められたが、依然として利用者ニーズが多くあり利用者の生活に支障が出ないよう、京都府ホームヘルパー連絡協議会を通じて再改正を訴えていく必要を感じている。
- ・運営面では登録ヘルパーにおいて、各々の家庭の事情等で活動が難しくなっており、日によっては大半のヘルパーが活動できないときがあった。活動が制限されるため利用者に迷惑をかけないよう事業所運営を行うことや受入調整することが課題になっており、中山間地における福祉の担い手不足は本事業所においても継続した課題である。

(3) 訪問入浴介護事業・・・入浴車で在宅に訪問し、入浴支援

職 種 名	瑞 穂 事 業 所	備 考
管理責任者	1名	在宅福祉課長兼務
介護職員	2名	
看護師	2名	デイ看護師1名兼務

※利用状況の推移（述べ提供回数、単位：回）



■ 予防介護・総合事業訪問入浴・・・30年度利用者なし

■ 訪問入浴介護事業の実績（介護1～5の利用状況実績）

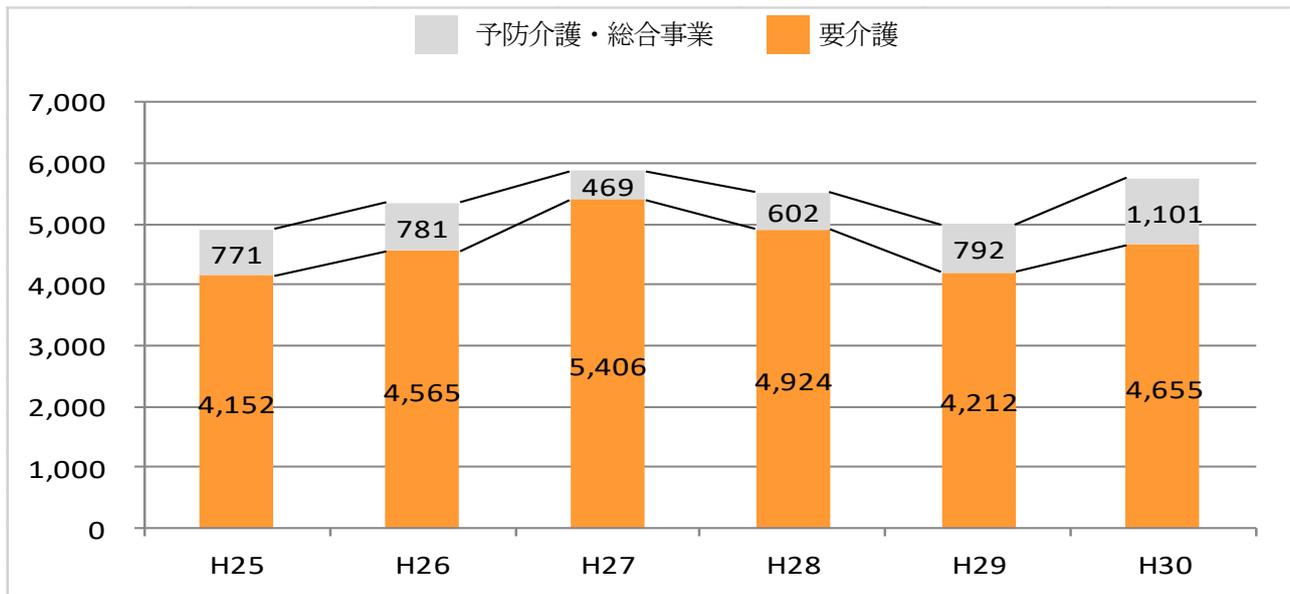
延べ利用者数（人）	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
30年度	0	0	1	0	0	1
29年度	6	3	0	1	4	14
28年度	10	0	0	9	0	19
前年度比較（%）	0	0	100.0	0	0	7.1
28年度比較（%）	0	0	100.0	0	0	5.3
延べ提供回数（回）	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
30年度	0	0	3	0	0	3
29年度	19	8	0	3	7	37
28年度	39	0	0	32	0	71
前年度比較（%）	0	0	300.0	0	0	8.1
28年度比較（%）	0	0	300.0	0	0	4.2

【成果・課題】

- ・ここ数年は訪問入浴のニーズ減少が続いており、30年度においても4月に3回入浴提供をして以降は活動休止状態となっている。
- ・町内の各居宅介護支援事業所へ実態調査をしたところ昨年末で9件の提供となっており、町内の利用ニーズが減少傾向にあるなか専属業者であるアサヒサンクリーン（株）が全てを担っている状況であった。
- ・社協の事業所体制としても兼務や非常勤職員の配置であり、利用がない状況での事業継続及び運営は大変難しく、事業所を維持していくことが大変困難な状況にある。

(4) 通所介護事業・・・デイサービスセンターで、入浴・余暇活動等を提供

※利用状況の推移（述べ提供回数、単位：回）



■ 予防通所介護事業の実績（要支援1・2の利用状況実績）

延べ利用者数（人）	要支援1	要支援2	総合事業	合計
30年度	-	-	174	174
29年度	0	0	130	130
28年度	3	24	68	95
前年度比較（%）	-	-	133.8	133.8
28年度比較（%）	-	-	255.9	183.2
延べ提供回数（回）	要支援1	要支援2	総合事業	合計
30年度	-	-	1,101	1,101
29年度	0	0	792	792
28年度	25	24	436	602
前年度比較（%）	-	-	139.0	139.0
28年度比較（%）	-	-	252.5	182.9

■ 通所介護事業の実績（介護1～5の利用状況実績）

延べ利用者数（人）	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
30年度	153	203	86	92	26	560
29年度	168	164	63	93	26	516
28年度	208	206	104	67	35	620
前年度比較（%）	91.1	123.8	136.5	98.9	100.0	108.5
28年度比較（%）	73.6	98.5	82.7	137.3	74.3	90.3
延べ提供回数（回）	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
30年度	1,341	1,418	806	935	155	4,655
29年度	1,314	1,399	577	759	163	4,212
28年度	1,492	1,778	869	529	256	4,924
前年度比較（%）	102.1	101.4	139.7	123.2	95.1	110.5
28年度比較（%）	89.9	79.8	92.8	176.7	60.5	94.5

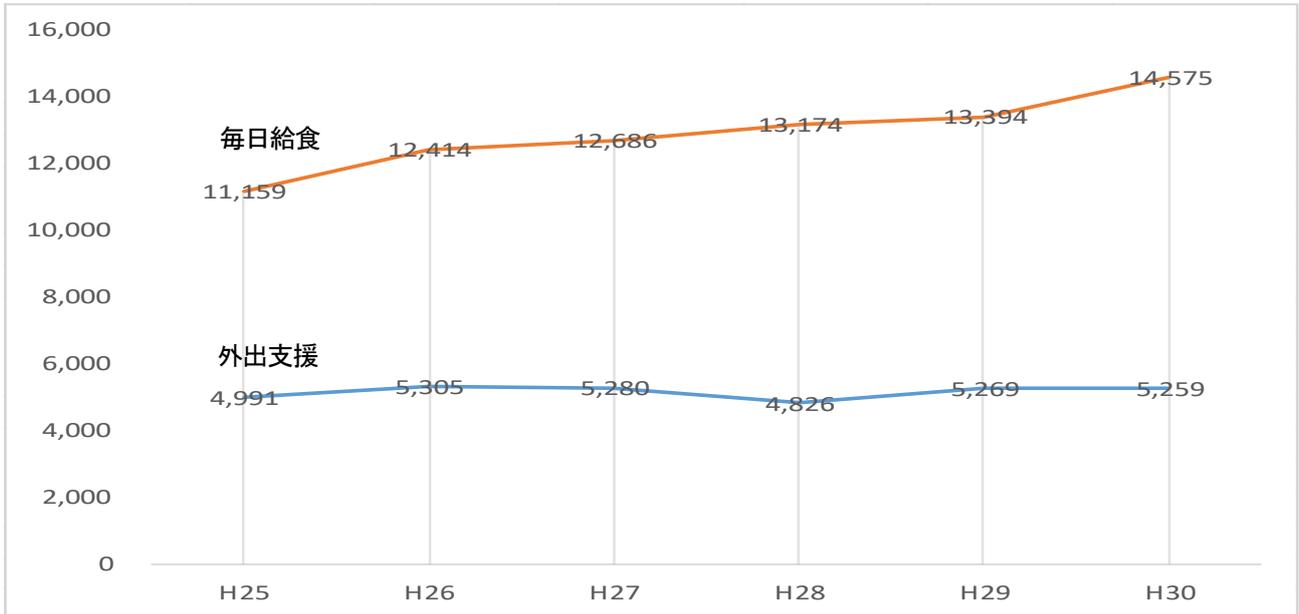
【成果・課題】

- ・昨年度と比べ利用者数、延べ提供回数とも大幅増となった。
- ・30年度は3年に一度の介護保険制度の見直しにあたり、通所介護事業の介護報酬が軒並み1.7～1.8%の減額となったが、そのような厳しい状況下でも前年度以上の収入を上げることができた。
一方、市町村事業である総合事業の利用者数が増加し、30年度では延べ人数で初めて1,000人の大台を突破した。今後の要支援者数の動向について注視しつつ、サービス利用が適切であるか、町とも連携を図っていく。
- ・30年度は大雨で事業所を延べ2日間休所する事となった。今後も異常気象の甚大化・局地化が予想されるため、社協内外の関係機関との連携を密に行い、早めの対応で安全な事業所運営を行いたい。
- ・作業所2名の実習を受け入れ1名は就労に繋がった。作業所等とも連携し、その対象者に合った実習の受け入れを行いたい。
- ・冬季に体調不良等でキャンセルされる利用者があったが、他事業所でも同様の傾向が見受けられる。そのような状況で、本事業所では加湿や手洗い等の感染予防の徹底を行い、結果、インフルエンザの発症・蔓延もなく運営が行えた。冬季に限らず年間を通じて感染症対策を継続していきます。

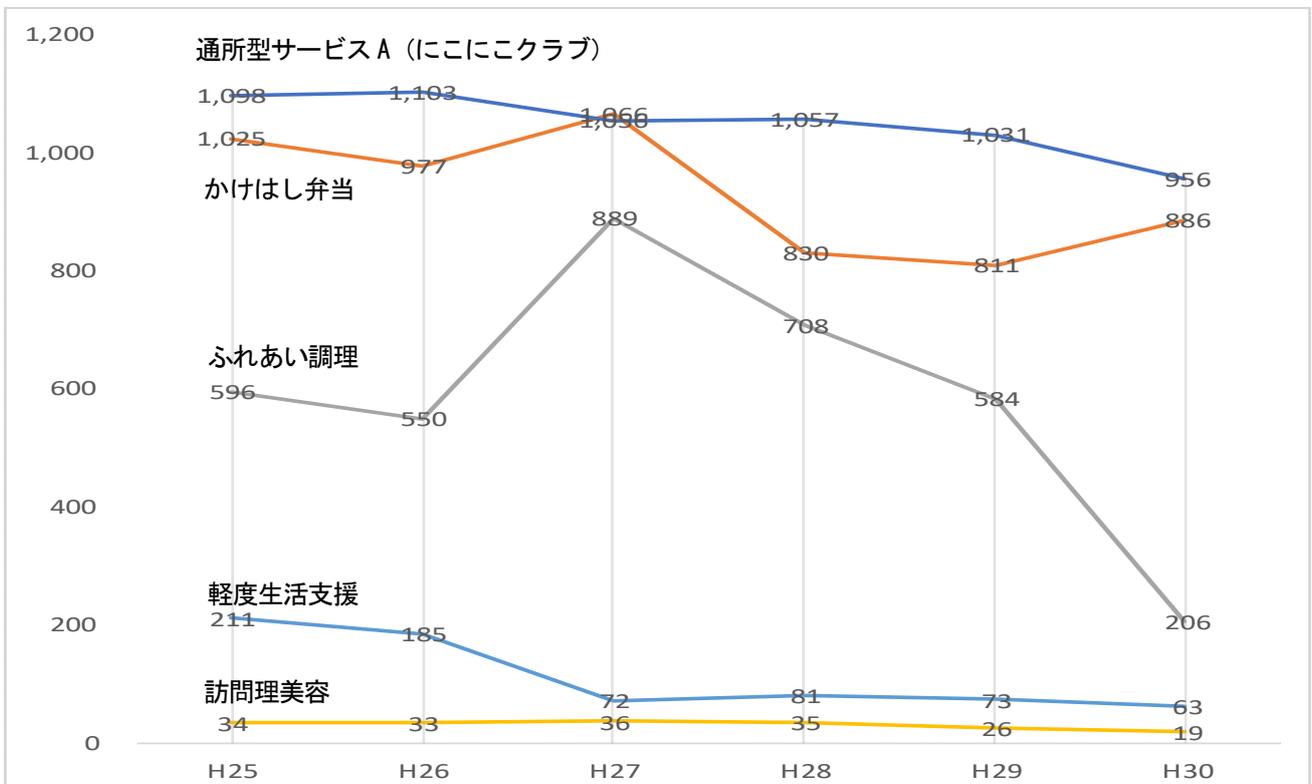
2 高齢者生活支援事業・・・京丹波町委託事業

※利用状況の推移

・毎日給食（延べ配食数合計、単位：食） ・外出支援（延べ提供回数合計、単位：回）



・軽度生活支援（延べ提供回数合計、単位：回） ・かけはし弁当（延べ配食数合計、単位：食）
 ・ふれあい調理（延べ参加人数合計、単位：人） ・訪問理美容（延べ提供回数合計、単位：回）
 ・にこにこクラブ（延べ提供回数合計、単位：回）



(1) 軽度生活支援事業

- 対象者：概ね65歳以上の高齢者で、一人ぐらし高齢者・高齢者世帯等、日常生活上の援助が必要な方
- 内容：掃除、洗濯、調理、他軽易な日常生活上の援助
- 提供者：ホームヘルパー

延べ利用者数 (人)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
30年度	12	12	0	24
29年度	12	15	0	27
28年度	12	26	0	38
前年度比較 (%)	100.0	80.0	0	88.9
28年度比較 (%)	100.0	46.2	0	63.2
延べ提供回数 (回)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
30年度	50	13	0	63
29年度	52	21	0	73
28年度	43	38	0	81
前年度比較 (%)	96.2	61.9	0	86.3
28年度比較 (%)	116.3	34.2	0	77.8

【成果・課題】

- ・総合事業に制度化され、今後の新規利用者はないと考えられる。

(2) 外出支援事業

- 対象者：概ね65歳以上の高齢者、または概ね60歳以上の高齢者であって下肢が不自由な方で、一般の交通機関の利用が困難な方
- 内容：自立生活を維持し、要介護状態への進行を防止するために必要と認められる通院や買い物等の送迎
- 提供者：運転介助員、ホームヘルパー

	延べ利用者数 (人)	延べ提供回数 (回)
30年度	1,505	5,259
29年度	1,497	5,269
28年度	1,490	4,826
前年度比較 (%)	100.5	99.8
28年度比較 (%)	101.0	117.8

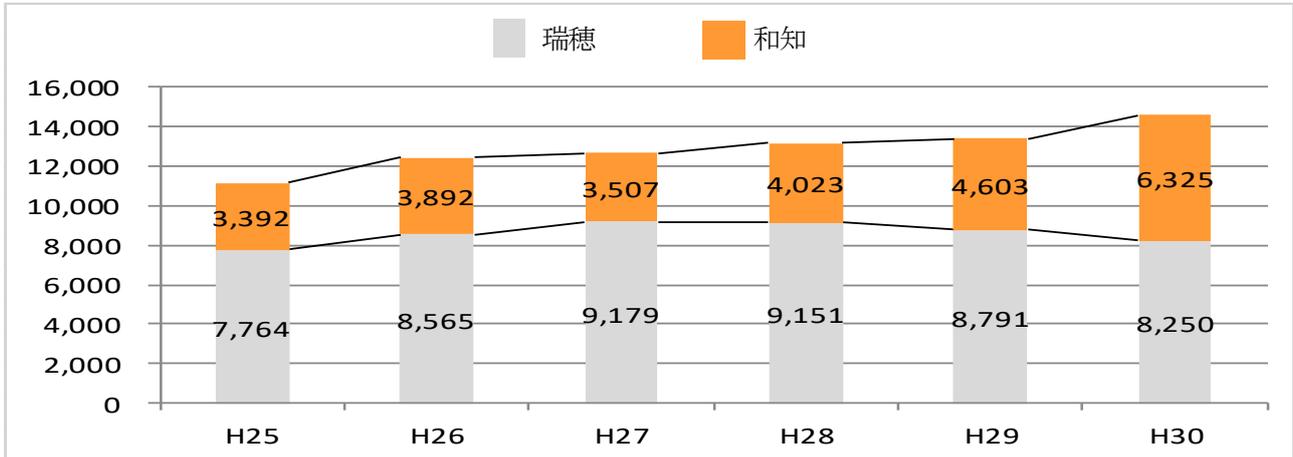
【成果・課題】

- ・通院の迎えの時間が重なると、車両や送迎する職員も限られており、一件あたりの距離・時間がかかるため、運転手の確保が困難。
- ・病院の送迎先が福知山～亀岡まで幅広いため、支所間で調整しないと対応が難しいときがある。また遠方の場合待ち迎え対応や、高速道路を使用することが多くなってきている。
- ・車の乗り降りに介助を要する人や、自宅の中まで対応が必要な人など、状態の変化に応じて臨機応変に対応しなくてはいけない方が増えてきている。

(3) - 1 食の自立支援事業（毎日給食）

- 対象者：調理が困難な一人暮らし高齢者
- 地 区：瑞穂地区、和知地区のみ ※丹波地区は丹波高原荘が実施
- 内 容：栄養バランスのとれた夕食弁当の宅配
- 利用料：1食 500円（ご飯、おかず）

※地区ごとの利用者数の推移（単位：提供配食数）



延べ利用者数 (人)	瑞 穂	和 知	合 計
30年度	490	329	819
29年度	511	223	734
28年度	540	202	742
前年度比較 (%)	95.9	147.5	111.6
28年度比較 (%)	90.7	162.9	110.4
延べ提供食数 (食)	瑞 穂	和 知	合 計
30年度	8,250	6,325	14,575
29年度	8,791	4,603	13,394
28年度	9,151	4,023	13,174
前年度比較 (%)	93.8	137.4	108.8
28年度比較 (%)	90.2	157.2	110.6

【成果・課題】

- ・和知地区の新規利用者が多く、今後も更に増えると予想される。
- ・7月の豪雨では国道27号線が通行止めとなり、配食ができないことがあった。また公民館などへ早めに自主避難されている場合の配食先の確認など、災害時の配食について今後検討する必要がある。

(3) - 2 食の自立支援事業（ふれあい型給食サービス）

- 対象者：一人暮らし高齢者・高齢者世帯等（和知地区）
- 内 容：調理・配食ボランティアによる月2回実施の「かけはし弁当」
- 利用料：1食 400円

	配食数 (食)	調理ボラ数 (人)	配食ボラ数 (人)
30年度	886	111	337
29年度	811	118	334
28年度	830	120	356
前年度比較 (%)	109.2	94.1	100.9
28年度比較 (%)	106.7	92.5	94.7

【成果・課題】

- ・調理、配食ボランティアともに高齢で活動を辞められる方が増えている。負担なく活動が続けられるよう今後取組み内容を検討する必要がある。



(3) - 3 高齢者食生活改善事業（高齢者ふれあい調理実習会）

■対象者：一人暮らし高齢者・高齢者世帯等の高齢者

■内 容：食生活改善推進員協議会「くるみの会」の協力を得て、「作る喜び」「大勢で食べる喜び」等を感じてもらおうと共に、調理方法を学ぶ

■利用料：1食 400円

<丹波地区>

	対象地域	開催日	参加者	くるみ
丹波地区	竹野地区	12月6日(木)	3名	6名
	高原地区	11月30日(金)	3名	4名
	須知地区	12月4日(火)	0名	0名
	下山地区	11月27日(火)	11名	4名
合 計			17名	14名

<瑞穂地区>

	対象地区	開催日	参加者	くるみ
瑞穂地区	桧山地区	11月19日(月)	4名	5名
	梅田地区	11月20日(火)	9名	6名
	三ノ宮地区	11月29日(木)	10名	4名
	質美地区	未実施		
合 計			23名	15名

<和知地区>

区 名	開催日	参加者	区 名	開催日	参加者
中山	未実施		仏主	11月22日	7名
升谷	11月8日	8名	本庄	未実施	
市場	11月28日	13名	坂原	11月13日	11名
大倉	11月15日	8名	中	11月7日	12名
篠原	11月13日	6名	角	未実施	
大迫	11月16日	13名	広瀬	未実施	
長瀬	11月5日	13名	才原	11月9日	15名
塩谷	11月9日	5名	大簾	11月15日	8名

上乙見	11月30日	10名	広野	11月11日	9名
西河内	11月14日	9名	出野	11月22日	5名
下栗野	11月13日	11名	稲次	11月19日	12名
細谷	未実施		安栖里	11月9日	18名
上栗野	11月8日	3名	小畑	11月15日	16名
合 計				212名 ※内訳 参加者 166名 くるみ 46名	

【成果・課題】

・長年、民生児童委員協議会や食生活改善推進員の皆様の協力を得て取組んできた事業であったが、参加者の高齢化や参加者数の減少、調理に関われないなどの課題があり、今年度をもって本事業は終了することとなった。しかし、この取組みによって独自にサロンや地域の中で調理実習を開催される場所もあり、自主的な事業としてひろがりも見られる。



<男性調理実習>

- 対象者：町内在住の男性
- 内 容：食生活改善推進員協議会「くるみの会」の協力を得て、健康的な食生活の推進と男性の食生活づくりを応援することを目的に基礎を中心とした調理方法を学ぶ。
- 利用料：1食 400円
- 場所：和知ふれあいセンター 調理室（1回目/2回目）
瑞徳保健福祉センター 調理室（3回目）
丹波中央公民館（4回目）

		開 催 日	参加者数	くるみ	職員
平成 30年度 (2018)	第1回	6月20日	11名	7名	2名
	第2回	9月11日	9名	10名	3名
	第3回	11月9日	6名	7名	1名
	第4回	2月1日	4名	2名	1名
合 計			30名	26名	7名

【成果・課題】

- ・全町開催を実施したが、まだまだ認知されていない面があり、次年度は広報を強化していきたい。
- ・リピーターも多く、開催を楽しみにされている方が増えてきた。



(4) 訪問理美容事業

- 対象者：理美容院に出向くことが困難な高齢者等
- 内 容：社協に登録された理美容師が訪問し理美容を行う
- 利用料：1回 1,000円

延べ利用者数 (人)	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
30年度	10	6	3	19
29年度	15	7	4	26
28年度	21	6	8	35
前年度比較 (%)	71.4	116.6	50.0	74.3
28年度比較 (%)	88.2	87.5	36.4	72.2

【成果・課題】

新規利用者の方は和知地区2名の状況。入所等もあり、利用者は減ってきている。

(5) 通所型サービスA事業（にこにこクラブ）

- 対象者：総合事業対象者の高齢者。
- 内 容：5班体制で、月2回、健康観察と体操を取り入れ、介護予防や健康維持を目的に実施
- 指導者：支援スタッフ…5名、看護師…2名、合計7名
- 会 場：主会場は、和知高齢者コミュニティセンター

月	開 催 日	参加者数	スタッフ数
4月	17日、19日、26日	53	20
5月	8日、10日、17日、22日、24日、31日	95	40
6月	5日、7日、14日、19日、21日、28日	97	40
7月	3日、5日、12日、19日	89	27
8月	21日、23日、30日	46	20
9月	6日、13日、18日、20日、27日	74	30
10月	2日、4日、11日、16日、18日、25日	93	40
11月	6日、8日、15日、20日、22日、29日	94	40
12月	4日、6日、13日、18日、20日、25日	101	40
1月	15日、17日、24日	40	20
2月	5日、7日、14日、19日、21日、28日	81	36
3月	5日、7日、14日、19日、22日	93	30
合 計		956	383
29年度実績		1,031	394
前年度比 (%)		92.7	97.2

【成果・課題】

- ・制度の改正により、利用者の身体状況が幅広く介護予防の域を超え介護を要する利用者が増えてきている。
- ・今後、緩和型通所サービス事業（介護予防）としての役割をどのように果たしていくべきか、検討を要する。

3 認知症専門相談窓口設置事業・・・・・・・・京丹波町委託事業

本業務は、認知症地域支援推進員を配置し、地域包括支援センター、医療機関及び介護関係事業所、地域の団体、住民等と連携し、認知症の初期の段階から終末期までの本人やその家族等の相談及び支援、地域の啓発、介護力向上等切れ目のない支援を目的とし、下記の事業を実施した。

(1) 認知症地域支援推進員の配置

- ① 認知症地域支援推進員研修・・・ 1回
- ② 認知症地域支援推進員会議等・・・ 2回

(2) 個別介護相談、事例検討会の実施

- ③ 家庭訪問等相談活動・・・・・・・・ 10回
(相談内容)

・認知症初期集中支援についての相談、認知症初期集中支援のための初回訪問
認知症初期集中支援のための継続訪問など

- ④ 認知症サポート会議等出席・・・ 4回
- ⑤ 初期集中支援チーム員研修受講 1回

(3) 認知症理解啓発講座開催

日時	会場	内容
12月5日	水原公民館	京丹波町認知症ケアパスの活用について
1月22日	実勢公民館	京丹波町認知症ケアパスの活用について
2月4日	北久保公民館	京丹波町認知症ケアパスの活用について
2月15日	西階公民館	京丹波町認知症ケアパスの活用について
3月4日	蕨ふれあいセンター	京丹波町認知症ケアパスの活用について
3月18日	大朴公民館	京丹波町認知症ケアパスの活用について

(4) 介護家族交流会の実施 合計 3回開催、参加延べ人数 27名

開催日時	会場	内容	参加数
8月31日	瑞徳保健福祉センター	認知症勉強会(認知症について、ケアパスの有効活用について) 靴と歩き方のはなし(ポールウォーキングの活用、介護予防・認知症予防について)	6人
9月28日	特別養護老人ホーム 丹波高原荘		18人
10月26日	和知高齢者コミュニティ センター(社協和知支所)		3人

(5) その他の活動

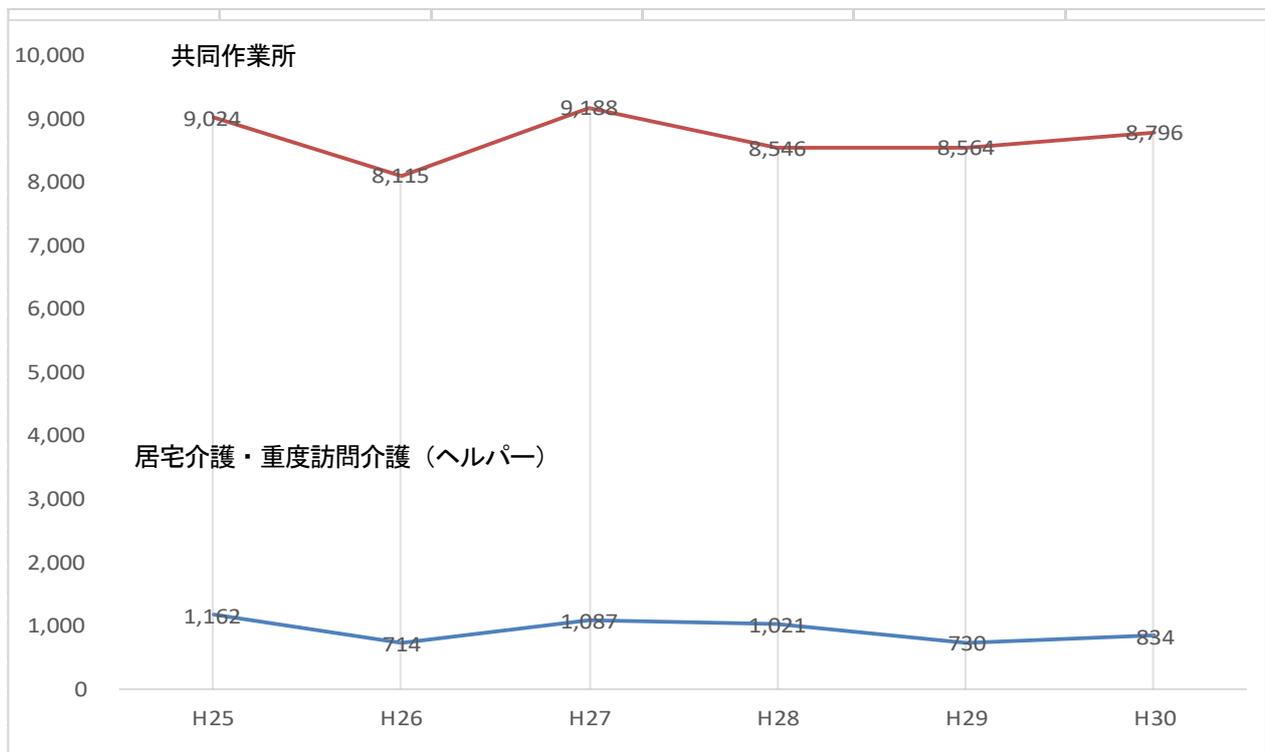
社協広報ほほえみNo.44(平成30年6月号)にて優しい認知症ケアユマニチュードDVD貸出のお知らせを掲載
社協広報ほほえみNo.45(平成30年9月号)にて家族介護・介護予防教室開催のお知らせを掲載
社協広報ほほえみNo.46(平成31年1月号)にて冬場のオレンジ勉強会のお知らせを掲載



【障害者福祉事業】

1 障害者総合支援事業

※利用状況の推移（延べ提供回数合計、単位：回）



(1) 居宅介護・重度訪問介護事業

■ホームヘルパーによる在宅支援活動

延べ利用者数 (人)	障害支援 区分 1	障害支援 区分 2	障害支援 区分 3	障害支援 区分 4	障害支援 区分 5	障害支援 区分 6	合 計
30 年度	12	23	39	0	0	12	86
29 年度	12	24	50	12	12	12	122
28 年度	17	16	52	0	0	20	105
前年度比較	100.0	95.8	78.0	0	0	100.0	70.5
28 年度比較	70.6	143.8	75.0	0	0	60.0	81.9
延べ提供回数 (回)	障害支援 区分 1	障害支援 区分 2	障害支援 区分 3	障害支援 区分 4	障害支援 区分 5	障害支援 区分 6	合 計
30 年度	137	181	137	0	0	379	834
29 年度	143	135	130	0	0	322	730
28 年度	146	112	265	0	0	498	1,021
前年度比較	95.8	134.1	105.4	0	0	117.7	114.2
28 年度比較	93.9	161.6	51.7	0	0	76.1	81.7

【成果・課題】

他者とのコミュニケーションが難しい方において、訪問予定日の連絡をとっても、ご本人から了解が得られないことがある。馴染みのあるヘルパーでも訪問することが難しいことがあり、相談支援専門員とも協力し支援する必要がある。

(2) 障害者共同作業所運営事業

障がいのある方の自立を目指し、生活能力向上の支援（生活介護）や就労訓練（就労継続支援B型）を行う。

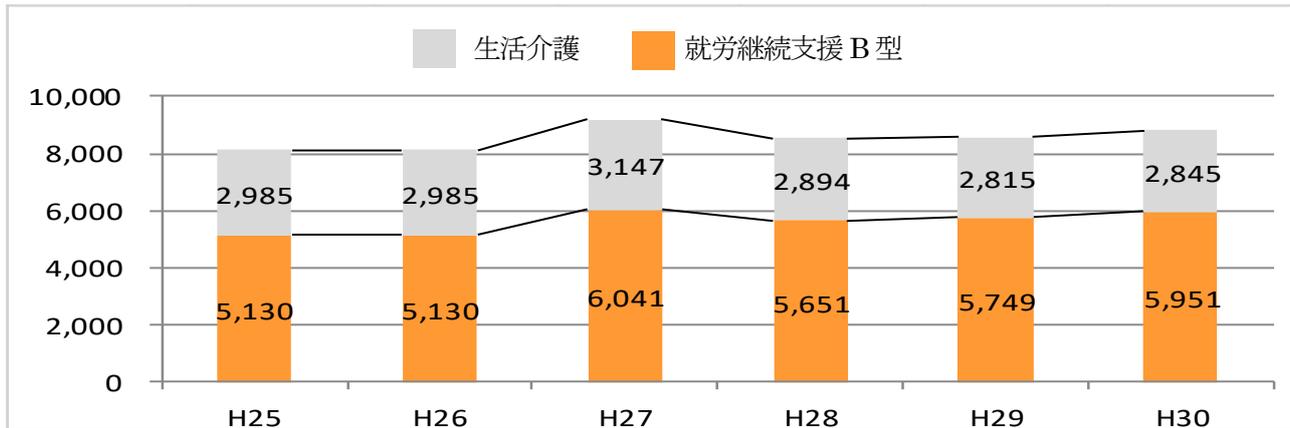
【生活介護】

創作的活動や生産的活動の機会を提供し身体的機能や生活能力向上のための援助を行う。

【就労継続支援B型】

一般就労に向けて必要な知識や能力の向上を目的に、生産活動やその他の活動を通して本人に合った訓練や支援を行う。

※利用実績の推移（単位：提供回数）



①利用実績

延べ利用者数 (人)	生活介護	就労継続支援B型	合計
30年度	2,845	5,951	8,796
29年度	2,815	5,749	8,564
28年度	2,894	5,651	8,545
前年度比較 (%)	101.1	103.5	102.7
28年度比較 (%)	98.3	105.3	102.9

②販売会（自主製品の販売を通して啓発や工賃アップにつなげる）

販売会名	開催日	内容
スポーツクリエイションフェスティバル	5/20 (日)	丹波自然運動公園にて自主製品販売 保護者2名
大簾ほたるファンタジー	6/16 (土)	大簾にて自主製品販売 職員2名
2018 やまびこ夏祭り	7/15 (日)	瑞穂山彦苑にて自主製品販売 職員2名
第12回福祉事業所説明会	7/26 (木)	南丹市国際交流会館にて自主製品販売 職員1名利用者2名
和知ふるさとまつり	8/25 (土)	和知駅前にて自主製品販売 職員2名
丹波桜梅園まつり	10/20 (土)	丹波桜梅園にて自主製品販売 職員3名
ぬくもり京都丹波フェスタ2018	10/27 (土)	ほっとはあと南丹ブロックの取り組み 桂川イオンでさをり織り体験と自主製品販売
上和知村まつり	11/4 (日)	自主製品販売 職員2名
三ノ宮ふれあいまつり	11/11 (土)	瑞穂支所付近にて自主製品販売 職員2名
京都子育て応援フェスタ2018	11/24 (土)	さをり織り体験と自主製品販売 職員3名

きょうと地域福祉実践交流会	2/16 (土)	自主製品販売 職員 3 名
質美ふるさと人形展	3/30 (土)	自主製品販売 職員 2 名

③研修会

作業所職員全体研修会・・・ 3 回

4/2(月)	H30 年度事業計画等
7/13(金)	精神障害について、ケース検討会議
9/21(金)	就労支援について

製品に関する研修・・・・・・・・ 2 回

南丹圏域ネットワーク・・・・ 1 回

京都府強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	7/2 (月)、7/23 (月)	1 名
京都府相談支援従事者初任者研修	8/23 (木)、8/24 (金) 8/30 (木)、8/31 (金) 9/13 (木)、9/14 (金)	2 名
精神保健福祉研修	9/27(木)28(金)	1 名
対人援助の基本姿勢相談面接技術基礎セミナー	11/6 (火)～11/8 (木)	1 名
京都府サービス管理責任者等研修	10/31 (水) 12/10(月)、12/11(火) 12/13(木)、12/14(金)	1 名

④避難訓練（各支所年 2 回実施）

第 1 回避難訓練（水害を想定）

丹波本所 平成 30 年 10 月 31 日 (水)
瑞穂支所 平成 30 年 9 月 27 日 (木)
和知支所 平成 30 年 11 月 5 日 (月)

第 2 回避難訓練（地震を想定）

丹波本所 平成 31 年 3 月 19 日 (火)
瑞穂支所 平成 31 年 3 月 11 日 (月)
和知支所 平成 31 年 3 月 15 日 (金)

⑤地域交流（学校・地域の行事・ボランティア団体との交流を積極的に行う）

交流団体	開催日	内容
チャレンジヨット （立命館大学ヨット部との交流）	7/14 (土)	瑞穂支所から参加
和知小学校にて障害についての学習	7/18 (水)	和知支所長
育ちあう瑞穂の子らの集い	8/1(水)	瑞穂支所参加
和知子どもの集い	8/1(水)	和知支所参加
福祉体験学習	8/7 (火)	中学生 1 名瑞穂支所、丹波本所受け入れ
瑞穂中学校職場体験	10/29 (月)～31 (水)	中学 2 年生 3 名受け入れ
蒲生野中学校職場体験	11/6 (火)～8 (木)	中学 2 年生 1 名受け入れ
和知中学校職場体験	11/7 (水)～9 (金)	中学 2 年生 名受け入れ
竹野小学校 5 年生との交流	11/30 (金)	丹波本所にて
民児協瑞穂支部より見学・作業交流	12/18 (火)	民生児童委員瑞穂支部 5 名の方丹波本

		所
七八会と作業とレク交流	2/8 (金)	和知支所にて
丹波ひかり小学校6年生との交流	2/18 (月) .19 (火)	丹波本所にて
和知小学校5年生との交流会	3/8 (金)	和知支所にて
民児協和知支部との作業交流	3/13 (火)	民生児童委員和知支部4名の方和知支所



⑥健康管理

- ・熱中症予防の対策を続け、暑い夏であったが作業中に熱中症になることはなかった。
- ・健康管理に意識づけが出来てきて、利用者全員が住民健診や、定期受診を受けることが出来た。
- ・今年度も京都府の事業である障害者等歯科健診・指導事業を受け、これまで歯科受診が受けられなかった方も歯科通院につながられた。

【成果・課題】

<成果>

- ・一般就労に向けた支援として、相談支援センターにじを通してなんたん障害者就業・生活支援センターと連絡を取り合いながら障害者の雇用情報、企業・事業所実習の支援を行った。

社協内のデイサービス実習・・・2名

他事業所での実習・・・3名

1名はアルバイトとしての契約を結ぶ

1名はトライアル雇用に繋がった

<課題>

- ・ひとり暮らし、高齢化等の課題が顕著になり、作業所から帰宅後の支援が必要な方が増えてきている。
- ・施設の建物、器具備品や車両の老朽化により、修繕・整備のための必要経費が増えてきている。
- ・生活介護・就労継続支援B型と二つの事業を展開している現状では利用者様ひとり一人が安定した作業所での生活を送るための環境づくりが難しくなっている。本所・2支所それぞれ多機能型で行っているが行政に相談しながら、機能、建物、支所のあり方を探っていく必要がある。

2 特定障害者指定相談支援事業（相談支援センターにじ）・・・平成30年度新規事業

- 目的：障がいのある方が、自立した日常生活又は社会生活を営むことが出来るよう、保健、医療、福祉、就労、教育等の関係機関と緊密な連携を図りつつ、一人ひとりの意向、適正、特性等に応じ、適切かつ効果的な相談支援を行う。

■内容：ア 相談

- ・生活全般に関する相談や福祉サービス利用の意向、解決すべき課題の整理

イ 関係機関との連絡調整

- ・利用者が複数のサービスを利用する際、共通した支援目標を示すことで同じ方向性に向けたサービスの提供を図る

- ・利用者に関わる機関の役割分担やネットワークの強化
- ウ サービス利用計画の作成
- ・利用者のサービス利用計画を作成する上で生活に対する意向を確認し、総合的な支援の方針やサービスの目的の明確化を図る
 - ・サービスの提供が本人の意向に沿ったものとなっているか、また、新たな目標や身体状態の変化、計画の達成、サービスの種類、内容、支給量を定期的に確認する

■実績

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
依頼(相談)	13	5	4	2	3	2	6	3	1	3	5	47
契約	11	4	3	2	3	2	6	3	1	3	2	40
計画相談	0	5	4	3	3	2	6	3	1	3	3	33
モニタリング	0	0	1	1	6	3	3	3	2	5	4	28

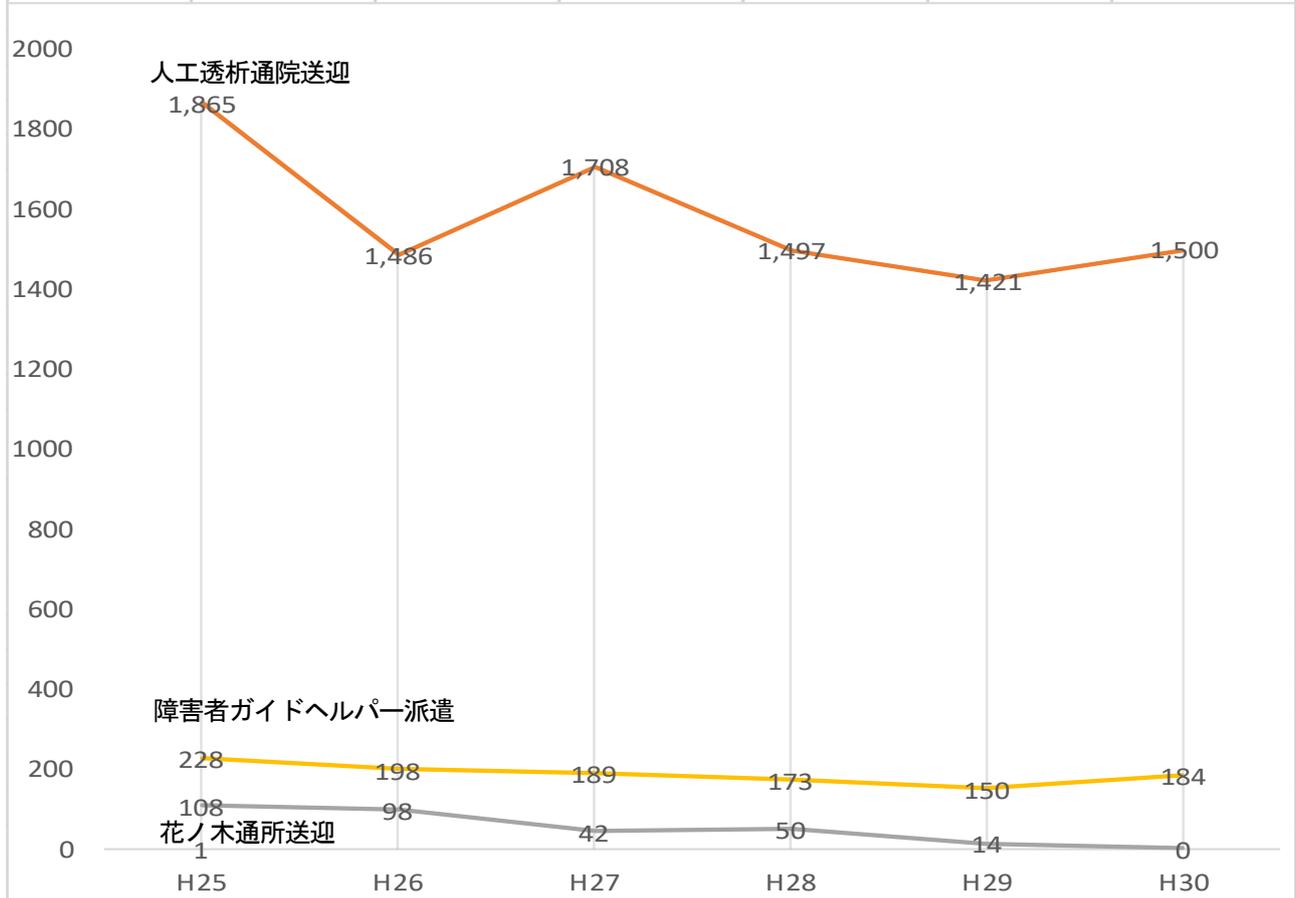
【成果・課題】

- ・本会が運営する共同作業所の利用者を中心に障がいのある方の計画相談に取組み、40名の方と契約することができた。
- ・計画相談による報酬では、さらに件数を増やさなければ運営面で厳しい状況であるが、利用者一人ひとりの関わりを大切にしながら相談支援を行っていきたい。

2 障害者等生活支援事業

※利用状況の推移（延べ提供回数、単位：回）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
透析	1,865	1,486	1,708	1,497	1,421	1,500
花ノ木	108	98	0	0	0	0
ガイドヘルパー	228	198	189	173	150	184



(1) 重度心身障害児・者通院通所事業

①人工透析通院送迎

■対象者：人工透析患者

■内容：人工透析のための通院送迎

■提供者：社協外出支援運転手、ホームヘルパー

延べ利用者数 (人)	瑞穂発 (R9)	和知発 (R27)	合計
30年度	136	50	186
29年度	131	52	183
28年度	122	65	187
前年度比較 (%)	103.8	96.2	101.6
28年度比較 (%)	111.5	76.9	99.5
延べ提供回数 (回)	瑞穂発 (R9)	和知発 (R27)	合計
30年度	900	600	1,500
29年度	783	638	1,421
28年度	782	715	1,497
前年度比較 (%)	114.9	94.0	105.6
28年度比較 (%)	115.1	83.9	100.2

【成果・課題】

- ・瑞穂、和知から京都中部総合医療センターへ送迎する便と、和知から綾部市立病院へ送迎する便がある。
- ・利用者の高齢化や症状の重度化により送迎車両への乗降に注意が必要な方や、透析後の状態によって送迎中に救急車対応が必要な場合もある。
- ・現在は車いす利用の方に介助員が乗車しているが、今後、ますます利用者の重度化が進むと車イス対応の車両の確保や介助員の確保が課題となる。

②花ノ木通所送迎

- 対象者：重度心身障害者で療育通所利用者
- 内容：花ノ木地域療育施設通所送迎
- 提供者：社協外出支援運転手

	延べ利用者数（人）	延べ提供回数（回）
30年度	0	0
29年度	4	14
28年度	12	50
前年度比較（％）	0	0
28年度比較（％）	0	0

※今年度利用無し

（2）障害者ガイドヘルパー派遣事業

	延べ利用者数（人）	延べ提供回数（回）
30年度	71	184
29年度	61	150
28年度	72	173
前年度比較（％）	116.4	122.7
28年度比較（％）	98.6	106.4

【成果・課題】

- ・視覚障害の利用者は、普段は同行援護事業所を利用されているが、都合が合わなかったため、当事業所を利用されることになったが、普段の関わりもあったため対応が出来た。
- ・精神障害の利用者は決まったヘルパーでしか通院できないため、対応ヘルパーが急きょ休みになったため家族対応をお願いしなければならなかった。

【児童福祉事業】

1 ファミリー・サポート・センター事業

① 各会員登録状況（3月末）

会 員 名	30年度末	新規登録者数	退会者数
依頼会員（おねがい会員）	61	5	5
提供会員（あずかり会員）	46	8	7
両方会員	20	6	0

② 研修会交流会の開催・・・あずかり会員養成研修会、会員交流会

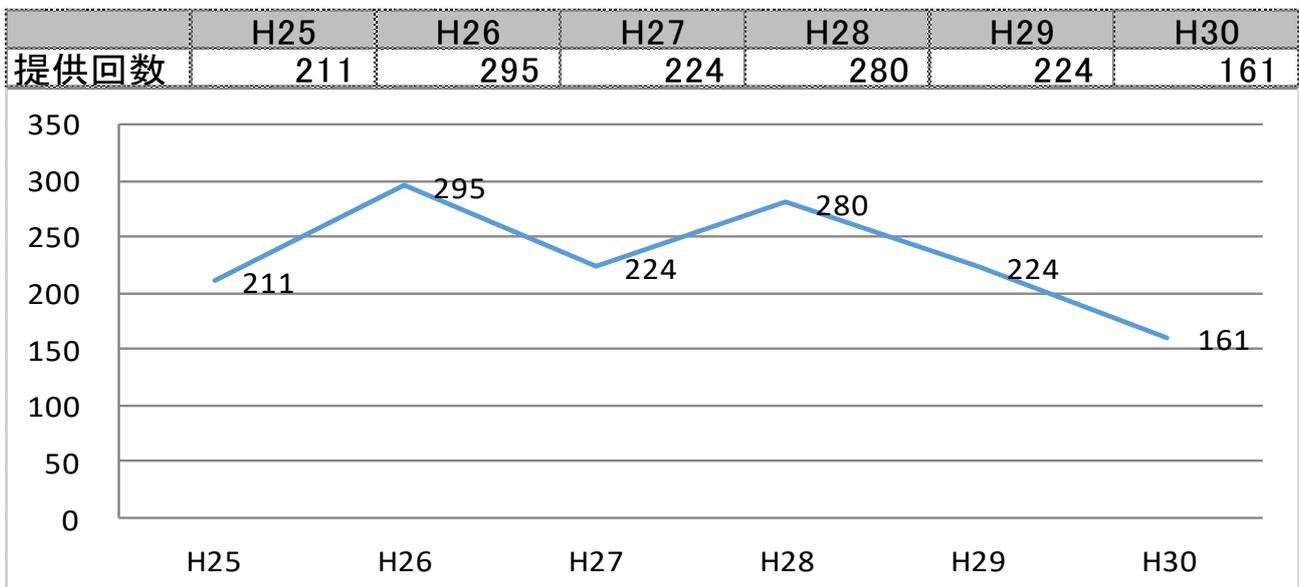
項 目	日時・場所	内 容
会員交流会	6月9日（土） 10:00～11:30 瑞穂保健福祉セ ンターほほえみ	内 容：『腹話術・マジックショー』・茶話会 講 師：林 淳子氏（京丹波町高岡） 参加者：13名 （依頼会員2名、提供会員3名、両方会員2名、 子ども6名）
会員交流会	12月8日（土） 10:00～11:30 瑞穂保健福祉セ ンターほほえみ	内 容：『ウッドビーズアクセサリ作り』・茶話会 講 師：森瀧 ひろ香氏（京丹波町豊田） 参加者：22名 （依頼会員4名、提供会員2名、両方会員3名、 子ども13名）
提供会員養成 講習会①	6月29日（金） 7月2日（月） 9:00～16:00 瑞穂保健福祉セ ンターほほえみ	内容： 「子どもの権利（人権）について」 講 師/子育て支援課 樹山敬子 氏 「京丹波町の現状と子育て支援について」 講 師/子育て支援課 並河直樹 氏 「受講生交流」 「会員活動体験談」 報告/両方会員・提供会員 「救急時対策と応急処置」 講 師/赤十字幼児安全指導員 村岡 和恵 氏 前田 ゆかり氏 「子どもの安全と病気の世話」 講 師/京丹波町保健福祉課 保田 智子 氏 三田 杏奈 氏 「あずかり会員として活動するために」 説 明/京丹波町社会福祉協議会 山崎 由樹 「子どもの社会性と遊びについて」 講 師/みずほ保育所 細見 ルミ 氏 「子どもの発達状況に応じた関わり方」 講 師/子育て支援課 石原 詩子 氏 受講者：14名 （新規受講6名、追加受講3名、再受講5名）
提供会員養成 講習会②	11月14日 （水） 11月19日 （月） 9:00～16:00 瑞穂保健福祉セ	内容： 「子どもの権利（人権）について」 講 師/子育て支援課 樹山敬子 氏 「京丹波町の現状と子育て支援について」 講 師/子育て支援課 並河直樹 氏 「受講生交流」 「会員活動体験談」 報告/提供会員

ンターほほえみ		<p>「救急時対策と応急処置」 講師/赤十字幼児安全指導員 村岡 和恵 氏 前田 ゆかり氏</p> <p>「子どもの安全と病気の世話」 講師/京丹波町保健福祉課 堀 道枝 氏</p> <p>「あずかり会員として活動するために」 説明/京丹波町社会福祉協議会 山崎 由樹</p> <p>「子どもの社会性と遊びについて」 講師/上豊田保育所 森 こず枝 氏</p> <p>「子どもの発達状況に応じた関わり方」 講師/子育て支援課 石原 詩子 氏</p> <p>受講者：6名 (新規受講4名、追加受講1名、再受講1名)</p>
---------	--	---

③ 活動実績・・・調整状況

事業名	回数	内容
マッチング	6	習い事への送迎、保護者の用事時の預かり、保護者就労時の預かり、保育施設前後の送迎と預かり
活動実績	161	習い事への送迎、保護者の用事時の預かり、保護者就労時の預かり、学童の迎えと学童後の預かり
訪問・面談	19	会員宅訪問、相談対応

※活動実績の推移（延べ提供回数、単位：回）



【成果・課題】

- ・学校が休みの間の学童送迎の要望があり、複数の提供会員とマッチングすることで要望に応じることができた。
- ・未就学児の長時間預かりの活動があり、依頼会員の子ども及び提供会員の負担にならないよう会員間で十分な話し合いをしていただくよう調整した。

2 子どもの居場所づくり

○下山小学校区『みんなのひみつきち』

社会問題となっている子どもの貧困や働き方の多様化、また核家族化により子どもを取り巻く環境が大きく変容している現代において、地域の大人との関わりや、さまざまな体験を通して心の成長（人格形成）を促し、また相談できる関係づくりなどを目的に実施。

開催日 毎月第3水曜日 午後3時30分～5時30分（※4月～10月まで）
8月、12月長期休み期間 午前9時～午後12時30分

（単位：人）

開催日	幼児	児童	保護者	ボランティア	合計
4/18	2	20	2	6	30
5/16	2	14	1	5	22
6/20	0	25	1	9	35
7/19	台風接近のため中止				
8/22	2	18	2	8	31
9/19	1	16	2	5	24
10/17	0	13	1	4	19
12/25	3	14	3	7	27

※ 延べ8回開催 188人参加

【成果・課題】

- ・毎回、20名前後の児童と地域のボランティアの方々、また乳幼児を連れて一緒に参加して下さる保護者の方が参加して下さり、顔の見える・名前呼びあえる地域づくりの一助も担っている。
- ・長期休暇期間に実施する2回についてはボランティアによりカレーライスを作ってもらい大勢で食べる喜び、楽しみも味わうことができた。
- ・一方で課題を抱える児童への関り方や、学校との連携にはまだまだ工夫が必要である。



【地域福祉推進事業】

1 啓発活動の展開

(1) 社協広報紙「ほほえみ」の発行

NO	発行日	内容等
第43号	4月17日発行	社協職員配置図、災害ボラセン町民講座、日赤社資協力のお願ひ、相談支援センターにじ開設、募金自販機・じぶんの町を良くする活動助成報告、京丹波町見守りネットワーク、助け合い活動「かがやき通信」、機械浴導入・キッズボランティア、作業所NEWSファミリー・サポート・センターよりお知らせ、寄付お礼
第44号	6月17日発行	30年度事業計画・予算、社協事業紹介、社協会費のお願ひ、災害ボランティアセンター、相談事業のご案内、在宅福祉課よりお知らせ、作業所NEWS、ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、職員募集のお知らせ、寄付お礼
第45号	9月17日発行	平成29年度事業報告・決算報告、新役員・新評議員紹介、共同募金・年末買物支援助成事業、防災カフェの取組み、災害ボランティアセンター（平成30年7月豪雨支援報告）、社会福祉体験学習について、作業所NEWS、在宅福祉課よりお知らせ、社協会費・寄付お礼
第46号	1月17日発行	社協会長新春メッセージ、歳末たすけあい募金（お買い物バス・年末お掃除応援隊）、実践交流会・講演会のお知らせ、出前講座のお知らせ、京都府福祉大会・共同募金ご協力のお礼、見守りネットワーク・相談支援事業、子どもの居場所づく・TMW、冬場のオレンジ勉強会（認知症勉強会）、作業所ニュース、ファミリー・サポート・センターよりお知らせ、寄付お礼、相談事業のご案内

(2) facebook（フェイスブック）での情報発信

京丹波町社協の事業に関する情報や町内の地域福祉活動の取組み等について、迅速に情報提供することを目的に facebook（フェイスブック）による情報発信を行う。

① 投稿実績 88回

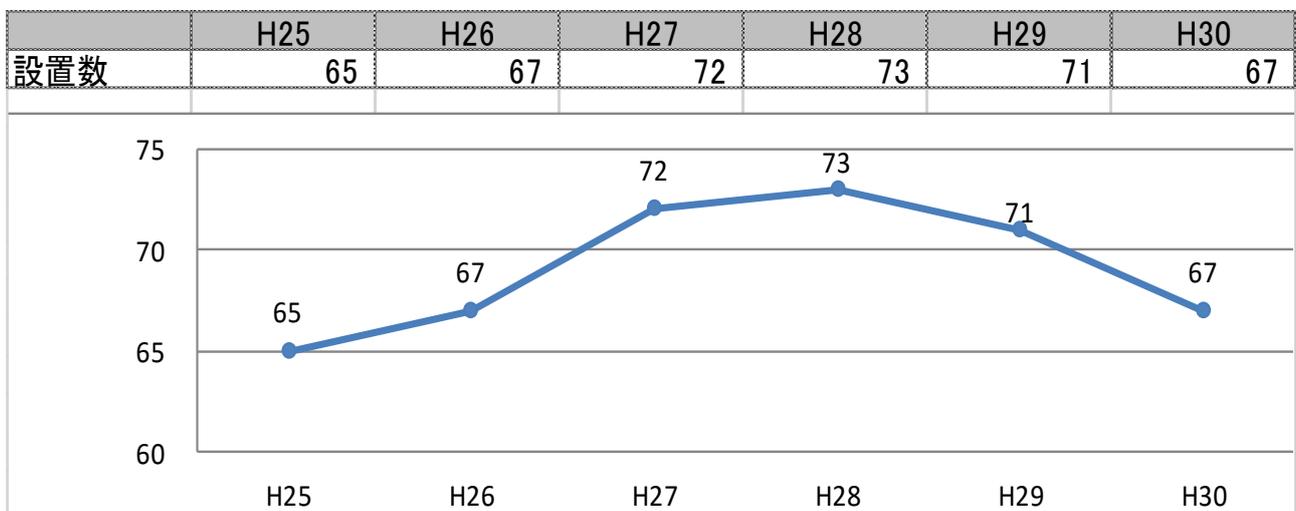
2 地域で安心した生活を送るために・・・“つながり”を大切に活動の展開

(1) ふれあいいいききサロン活動の展開

① ふれあいいいききサロン各地区の設置状況

丹波地区	瑞穂地区	和知地区	合計
30サロン 障害者サロン 1 広域サロン 1を含む	27サロン 広域サロン 1を含む	10サロン	67サロン
(29年度実績) 31サロン 障害者サロン 1 広域サロン 1を含む	(29年度実績) 30サロン 広域サロン 1を含む	(29年度実績) 10サロン	(29年度実績) 71サロン

※サロン設置数の推移



②研修・交流活動

研修・講座名	開催日・場所	内 容
平成30年度 京丹波町ふれあい・いきいき サロン活動者連絡会 (丹波地区・瑞穂地区) 参加者65名	平成31年3月22日(金) 13:30～ 京丹波町中央公民館 3階ホール	1 防火啓発の案内 園部消防署 丹波出張所長 野口靖之 氏 2 「サロン活動の広がり」と可能性 講師：京丹後市社会福祉協議会 森口 紀子 氏 3 情報交換会
平成30年度 和知地区 サロン連絡会 参加17人	平成31年2月4日(月) 13:30～ 和知ふれあいセンター 2階研修室	1 防火啓発の案内(出前講座) 園部消防署 丹波出張所長 野口靖之 氏 2 レクリエーション紹介 舞鶴市レクリエーション協会 大田恵子 氏 3 サロン活動助成事業報告の案内 4 福祉講演会の案内

【成果・課題】

- ・「サロンでするネタが無い…」などの声もあり、レクリエーションの紹介を実施。
- ・代表者も高齢化し、「自分自身や今後の地域は誰が中心に動いてくれるのか…」等、いろいろな不安要素が高まってきている声も聞く。現在活躍して頂いている方々が少しでも楽しく、また今後のサロン活動を無理なく進めてもらえるような働きかけが必要である。



(2) 小地域ボランティア高齢者支援事業

① 傾聴ボランティアによる訪問活動の展開

	丹 波	瑞 穂	和 知	合 計
活動回数	90	33	121	244
延べ訪問回数	78	22	109	209
訪問対象件数	6	17	12	35
サークル員数	7	5	8	20

【成果・課題】

- ・和知地区の活動者1人増。利用者は施設に入所される方や亡くられる方もあり、減少傾向。
- ・民生委員からの問い合わせやケアマネジャーからの訪問依頼もあり、その都度連携をとり傾聴活動につなげている。

(3) 京丹波町見守りネットワーク事業（絆ネット支援事業）・・・京丹波町委託事業

地域住民や事業者の方々が、日常生活や業務の中で異変や困りごとに気づいた時に、社協へ連絡していただくことで関係者が状況確認を行い、より多くの目で地域をさりげなく見守る活動を行う。

実施状況

■京丹波町見守りネットワーク事業協力事業所登録数

登録事業所	55事業所／3月末現在
通報件数	5件

【成果・課題】

- ・生協の宅配の方から、配達先の気になる状況など連絡が入ると、担当職員が現地に出向くなどしている。また、金融機関から気になる住民の方のことで連絡いただいたことで、その後、福祉サービス利用援助事業へと繋がったケースもある。
- 今後も引き続き町内事業所への登録のお願いをしていく。

3 住民参加の地域福祉推進事業

(1) 社会福祉体験学習事業の実施

夏休みの期間を活用し、町内在住の中学生・高校生を対象に生徒の自主的な参加のもと、3日間福祉施設等での体験を通じて福祉について学びを深める。

体験先	開催日	H29	H30	比較
わちエンジェル (中学生)	8月20・21・2日	2名	1名	-1
みずほ保育所 (中学生)	8月17・20・21日	1名	2名	+1
上豊田保育所 (中学生)	8月7・8・9日	3名	2名	-1
社会福祉協議会 (中学生)	8月6・7・8日	0名	1名	+1
わちエンジェル (高校生)	8月1・2・3日	0名	1名	+1
上豊田保育所 (高校生)	8月1・2・3日	0名	1名	+1
デイサービスセンターほほえみ (高校生)	8月1・2・3日	1名	1名	±0
中学生参加者合計		6名	6名	±0
高校生参加者合計		1名	3名	+2
参加者合計		7名	9名	+2

【成果・課題】

- それぞれの参加者が、保育園をはじめとする子どもたちに関わる仕事、また福祉関係の仕事など、自分の将来の仕事や進路を考えていく中で、この福祉体験学習への参加となっている。また短い日数ではあるが、この経験が進路、将来の仕事を実際に体験するためのきっかけとなり、貴重な経験になっていると感じる。
- 課題としては、事業所での大学生などの実習受け入れがあり、受け入れ人数の制限があること、毎年保育所での体験希望者はあるが、高齢者施設、障害者施設での体験希望者がいないことである。デイサービスセンターで実施しているキッズボランティアの取組みと合わせて、高齢者施設・障がい者施設での体験者増を検討していく。



(2) デイサービスキッズボランティア体験学習の実施

中高生の福祉体験学習を実施する中で、子どもたちの福祉離れを感じることもあり、小学生から福祉に触れ合うきっかけ作りの場として実施しました。

【夏休み】

期間 平成30年8月6日(月)～8月11日(土)
8月20日(月)～8月25日(土)

時間 13:30～16:00

参加者 丹波ひかり小3名、下山小1名、瑞穂小8名、和知小1名 **延べ人数 42名**

8/6 (月)	8/7 (火)	8/8 (水)	8/9 (木)	8/10 (金)	8/11 (土)
4名	5名	5名	2名	2名	5名
8/20 (月)	8/21 (火)	8/22 (水)	8/23 (木)	8/24 (金)	8/25 (土)
6名	4名	6名	3名	中止	0名

【春休み】

期 間 平成31年3月25日（月）～3月30日（土）※日曜日を除く

時 間 13：30～16：00

参加者 丹波ひかり小3名、下山小1名、瑞穂小3名、瑞穂中3名

延べ人数 22名

3/25（月）	3/26（火）	3/27（水）	3/28（木）	3/29（金）	3/30（土）
6名	0名	4名	6名	3名	3名



【成果・課題】

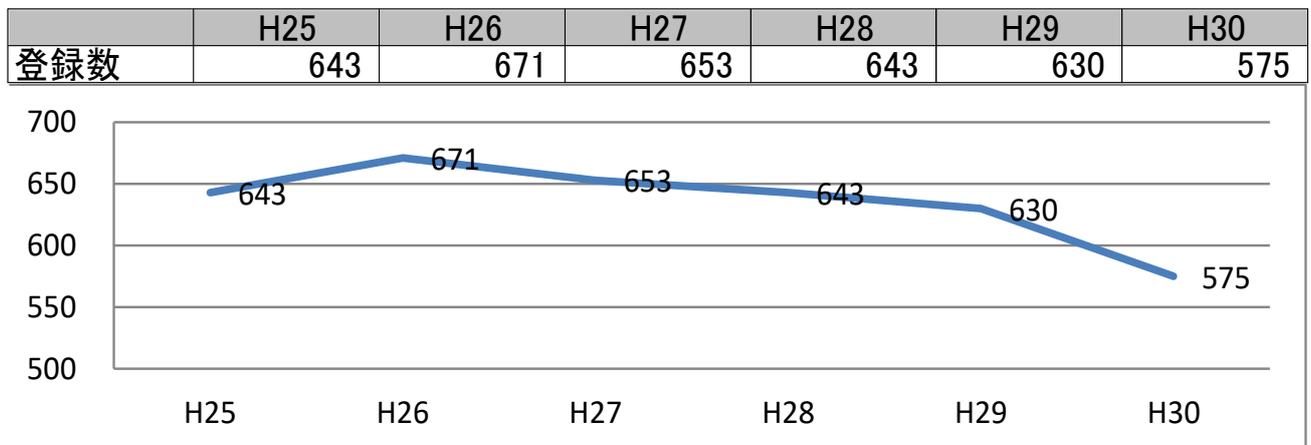
- ・2年が経過する中で、利用者とボランティアとの関係性の構築が進みつつある。また、経験を積み重ねたキッズボランティアが継続して関わる事で、新しいボランティアに教えるなど、新たな関係も築けている。
- ・利用者・ボランティア双方とも好評であるため、今後も継続し世代を超えた福祉交流として取り組んでいきたい。

【ボランティア振興事業】

1 ボランティアバンク登録状況

	性別	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
丹波	男	6	0	3	3	11	18	41
	女	9	4	8	21	70	131	243
	計	15	4	11	24	81	149	284
	29年	15	10	13	21	98	146	299
穂	男	1	1	0	0	5	10	17
	女	3	0	2	10	54	70	139
	計	4	1	2	10	59	80	156
	29年	1	1	5	13	76	71	167
和知	男	0	0	1	0	2	15	18
	女	0	0	1	8	42	66	117
	計	0	0	2	8	44	81	135
	29年	0	0	0	12	26	126	164
合計		19	5	15	42	184	310	575
29年度		16	11	22	46	200	343	630
比較 (%)		118.8	45.5	68.2	91.3	92.0	90.4	91.3

※ボランティアバンク登録者数の推移（単位：人）



2 ボランティア活動状況報告

(1) ボランティアグループ活動報告

①丹波地区

NO	ボランティアグループ名	年間活動回数	年間活動延べ人数
1	要約筆記ボランティア「イヤフレンズ」	48回	155名
2	朗読ボランティア「ともしび」	28回	177名
3	モンキーズ&ハッピーサークル	7回	50名
4	演芸ボランティア「民謡みやび会」	7回	103名
5	演芸ボランティア「瑞舟会」	54回	162名
6	演芸ボランティア「苑の会」	13回	43名
7	演芸ボランティア「すみれ会」	6回	30名
8	お誕生カードボランティア「すずらん」	1回	4名

9	絵手紙ボランティア	12回	61名
10	くらしの応援ボランティア「ひらめき会」	4回	16名
11	子育てボランティア「さくらんぼ」	9回	185名
12	保育ボランティア	21回	30名
13	美容ボランティア「愛（めぐみ）の会」	12回	72名
14	竹野ほほえみの会	57回	339名
15	蒲生ボランティアグループ	14回	126名
16	豊田あじさいの会	15回	129名
17	グリーンハイツすみれ会	11回	71名
18	グリーンハイツなごみ会	11回	245名
19	富田萩の会	10回	357名
20	傾聴ボランティア「うさぎの耳」	78回	155名
21	アロハフラピカケ	34回	710名
22	遊び広場もこもこ	22回	409名
23	和太鼓「えん」	96回	1,920名
24	和太鼓「結輪」	66回	264名
丹波支所活動計（イ）		636回	5,813名

②瑞穂地区

NO	ボランティアグループ名	年間活動回数	年間活動延べ人数
1	収集ボランティア「めぐみ」	6回	31名
2	要約筆記ボランティア「ささやき」	19回	39名
3	朗読ボランティア「あかり」	12回	51名
4	デイサービス介助ボランティア「あじさい」	373回	389名
5	暮らしの応援ボラ手作り介護用品「コスモス」	16回	55名
6	暮らしの応援ボラ「ダイナミックス」	17回	85名
7	保育ボランティア	個人ボラへ	
8	絵手紙ボランティア	個人ボラへ	
9	押し花ボランティア「花かご」	17回	77名
10	配食ボランティア	258回	481名
11	傾聴ボランティア「なかよし会」	33回	87名
12	手話サークル「いちよう」	25回	85名
13	京丹波スリーA	20回	92名
14	くるみの会	32回	101名
15	ハッピーマロン	7回	26名
16	コーラスカナリア	29回	406名
瑞穂支所活動計（ロ）		864回	2,005名

③和知地区

NO	ボランティアグループ名	年間活動回数	年間活動延べ人数
1	要約筆記サークル「くさぶえ」	72回	211名
2	朗読ボランティア「こだま会」	12回	65名
3	ガイドヘルパー「みちづれ」	78回	39名
4	十三の会	80回	148名
5	七八会	38回	64名

6	みんなで手をつなごう会	14回	84名
7	大迫グループ	22回	67名
8	虹の会	121回	135名
9	お誕生カードづくりボランティア「天花」	12回	74名
10	手芸ボランティア「モチーフ」	11回	41名
11	ふれあい給食サービス「調理ボランティア」	22回	125名
12	ふれあい給食サービス「配食ボランティア」	485回	652名
13	彩いろグループ	16回	176名
14	才原グループ「ふきのとう」	4回	8名
和知支所活動計（ハ）		987回	1,889名
総 合 計（イ+ロ+ハ）		2,487回	9,707名

（２）個人ボランティア活動報告

活 動 内 容	活動回数	活動者数
京丹波町身体障害者福祉会体育大会のボランティア支援	1回	3名
瑞穂山彦苑夏祭りボランティア	1回	12名
全京都車イス駅伝競走大会ボランティア	1回	2名
ふれあい給食「かけはし弁当」帯び絵原画書き	20回	2名
ふれあい給食「かけはし弁当」帯び絵名前書き	20回	20名
京たんば花火大会清掃ボランティア	1回	6名
毎日給食絵手紙ボランティア	6回	18名
保育ボランティア	4回	6名
合 計	54回	69名

3 ボランティア研修・養成講座・交流会の開催

研修・講座名	開催日・場所	対 象	内 容
平成30年度 傾聴講座 参加者13名	平成31年3月18日 (月) 13:30～15:30 京丹波町中央公民館	傾聴ボランティア 傾聴に興味のある方	『傾聴講座』 人づきあいで若返る 「話し上手は聴き上手」 講師：夢こらぼ 松尾やよい 氏



研修・講座名	開催日・場所	対 象	内 容
朗読ボランティア 「ともしび」とリス ナーとの交流会 参加者 25 名	平成 30 年 10 月 11 日 (木) 11:00～15:00 京丹波町中央公民館	朗読ボランティア 「ともしび」 リスナー	・各班による出し物 ・昼食交流会 ・落語 池田家 たん馬 氏 ・コーラス ザ・たんぼぼ



研修・講座名	開催日・場所	対 象	内 容
新聞でゴミ袋作り ボランティア講座 参加 26 人	平成 30 年 12 月 17 日 (月) 10:00～11:00 和知ふれあいセンター 2 階研修室	和知地区 町民	講師 山口八千代 氏 ・のり付けをするタイプでマチ付 きの袋作り。 →完成品は和知診療所で使用

【成果・課題】

- ・冬向きの農閑期に、家庭で気軽に出来るボランティア活動として新たな取組となり良かった。このような視点を持って今後もボランティア推進に努めていきたい。
- ・今までボランティア活動と関わりの無かった方の参加もあり、今後の活動につながると感じた。

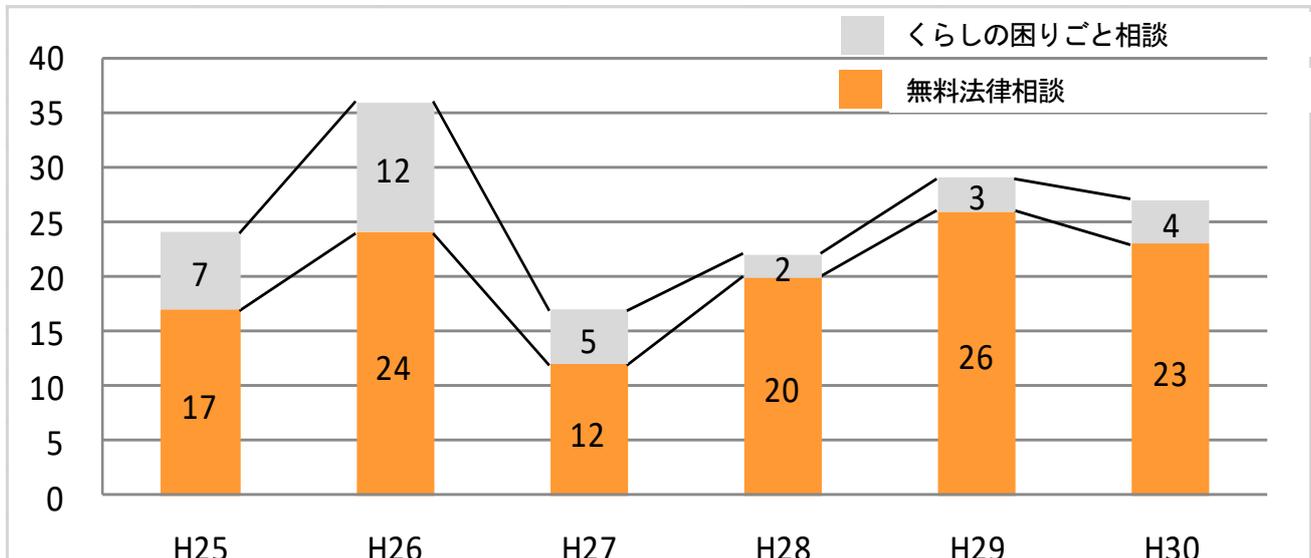


【厚生福祉事業】

1 心配ごと相談事業

※来談者の推移（「心配ごと相談」はH29より「くらしの困りごと相談」に名称変更。）

（単位：人）



くらしの困りごと相談	開催日	来談者	無料法律相談	開催日	来談者
丹波	5月7日	0	瑞穂	4月2日	2
和知	5月21日	0	丹波	5月7日	5
瑞穂	6月11日	0	和知	7月2日	3
和知	7月2日	1	瑞穂	8月6日	1
丹波	7月23日	0	丹波	10月1日	3
瑞穂	9月3日	0	和知	11月5日	3
丹波	10月1日	1	丹波	12月3日	1
和知	11月5日	0	和知	2月4日	2
瑞穂	11月19日	1	瑞穂	3月4日	3
丹波	12月3日	1			
瑞穂	1月7日	0			
和知	2月4日	0			
合計		4件	合計		23件
29年度実績合計		3件	29年度実績合計		26件

【成果・課題】

- ・くらしの困りごと相談から法律相談、各種専門相談窓口につながっている。
- ・相談内容によっては行政職員と共に対応し、相談後も継続的に相談者に関わっていく体制を構築している。
- ・年度末の運営委員会においては京都行政監視行政相談センター職員から行政相談員の役割や相談事例を紹介いただき、運営委員の共有の場になっている。

2 福祉資金貸付事業

低所得世帯や障がい者・高齢者が属する世帯を対象に、その世帯の状況・必要性に応じて無利子または低利で資金を貸し付ける事業。

(1) 新規貸付状況

	丹波地区	瑞穂地区	和知地区	合計
生活福祉資金貸付	0	0	0	0
くらしの資金貸付	1	0	0	1

(2) 担当者会議・研修の受講状況

研修名	開催日	内容
平成30年度生活福祉資金貸付事業説明会（教育支援資金）	5/16（水）	教育支援資金貸付事業運営上の変更点等の確認 貸付拡充対応の概要等説明
平成30年度第1回生活福祉資金貸付事業運営会議	6/29（金）	貸付運用方針・償還促進方針の変更・改正と償還促進方針における中長期滞納の取組み方についての説明等
平成30年度生活福祉資金貸付事業担当職員研修（教育支援資金）	9/3（月）	高等学校・大学等進学に係る教育支援資金の取り扱いについての研修会
平成30年度生活福祉資金貸付事業担当職員研修（償還研修）	9/28（金）	生活福祉資金の償還に関する府社協方針の確認と事例検討などを通じた償還促進に関する研修

【成果・課題】

（くらしの資金）

- 生活費の不足による貸付の申し込みがあり、審査会を開催し1件の貸し付けを行った。

（生活福祉資金）

- 貸付の相談に来られた相談者もあったが、多額の延滞金や高額のローン返済中の方であったり、他事業で対応すべき内容であったりと貸付につながるケースが無かった。また、問い合わせの中には「借金の返済で苦しいのでお金を貸してほしい」という方など、対応できないケースもあった。
- 教育支援資金に関しても、1件の相談があったが、貸付対象とならない学校への進学の相談であったため、貸付にはつながらなかった。

3 総合相談事業

(1) 相談受付内容

金銭関係	介護等相談	書類等手続き	その他	合計
30件	9件	0件	14件※	53件
（うち障害者） 14件	（うち障害者） 4件	（うち障害者） 0件	（うち障害者） 7件	（うち障害者） 25件

※その他の相談概要

成年後見、送迎（障害者）、行方不明、住民問題、家庭問題、ボランティア、災害ボランティア、解雇に

伴う緊急対応、行政への苦情

※障害者の相談については、総合相談で受付けた障害者に関する相談の数。『相談支援センターにじ』が受付けた相談件数とは異なる。

(2) 相談対応結果

他機関紹介	多職種連携対応	社協事業対応	その他	合 計
9件	23件	17件	4件	53件
振興局、税務課、保健所、成年後見センター、保健福祉課、保健福祉室、弁護士	保健所、保健福祉室、役場、包括支援センター、保健師、身障相談員、危機管理室、京丹波町病院地域連携室、民生委員、弁護士、他事業所ケアマネジャー	福祉サービス利用援助事業、デイサービス、かがやき、透析送迎、ケアマネジャー、くらしの資金、生活福祉資金	行方不明者発見時には連絡する、家計相談、持ち主へ連絡、岩をどけて解決、自力・家族対応で解決、連絡待ち、相談のみで納得	

【成果・課題】

- ・相談内容は金銭関係がもっとも多く、次いで介護等の悩みについて相談が多く入った。
- ・対応としては、行政（保健福祉課・包括支援センター）・ケアマネ・医療機関など多職種で連携した対応が最も多く、次いで、地域福祉権利擁護事業やケアマネなどの社協事業での対応、行政等関係機関へつないだり、相談窓口を紹介したりする対応の順に多かった。
- ・今年度、『相談支援センターにじ』が法人内に開所し、障害関連の相談を受ける機会が多くなった。総合相談で受付けた相談のうち、障害に関する相談についても件数を併せて記載した。

【福祉関係組織活動支援】

1 日赤社員増強運動

項目	丹波	瑞穂	和知	合計
社資協力募金額	693,701円	537,318円	468,975円	1,699,994円

2 共同募金実績

(1) 赤い羽根共同募金運動 ⇒ 10月を運動月間として住民のみなさんに協力依頼

項目	内容	合計
募金額	平成30年度募金額	3,142,610円

配分総額		平成29年度募金の配分金	2,493,431円
配分内訳	①啓発活動	広報ほほえみ発行	600,000円
	②高齢者福祉事業	町老連助成・一人ぐらし高齢者交流	216,791円
	③障害児・者福祉活動	町身体障害者福祉会助成等	130,000円
	④母子・父子福祉活動	町母子寡婦福祉会助成	130,000円
	⑤児童青少年福祉活動	町内小中学校福祉活動助成	240,000円
	⑥地域福祉活動	公募助成・かがやき活動・福祉まつり	640,000円
	⑦防災・災害対策事業	災害時用備品の購入	126,093円
	⑧未交付配分金	京都府共同募金会へ繰越金を送金	410,547円

(2) 歳末たすけあい募金 ⇒ 12月を運動月間として住民のみなさんに協力依頼

項目	内容	合計	
募金額	平成30年度募金額	1,805,226円	
配分総額	平成30年度募金の配分金	1,661,226円	
前年度配分金	平成29年度募金の配分金(未交付分)	273,910円	
配分内訳	①在宅援助活動	見舞・激励金の配布	866,000円
	②在宅サービス事業	年末お掃除隊、買物支援、介護用防水シート配布	588,986円
	③共同作業所支援	共同作業所交流会支援	100,000円
	④未交付配分金	京都府共同募金会へ繰越金を送金	380,150円

【成果・課題】

- ・平成30年7月豪雨災害支援では共同募金の防災・災害対策事業で整備していたリヤカーやスコップ、高圧洗浄機などを役立てることができた。
- ・年末お掃除応援隊はかがやき活動の活動者に協力頂き実施しているが、昨年度に比べ申込みが増加し、みなさんに喜んでいただけた。今後も地域のたすけあいを大切にしながら活動を続けていく。
- ・公募助成事業では申請団体が少なかった。来年度は、よりたくさんの地域福祉活動に役立てられるよう広報していく。

3 京丹波町老人クラブ連合会

京丹波町老人クラブ連合会と丹波・瑞穂・和知それぞれの支部活動を支援するため、事務局機能を担っている。

【災害支援活動と災害ボランティアセンター活動報告】

1 支援活動

(1) 京丹波町災害ボランティアセンターの設置・運営

平成30年7月豪雨災害で和知地域の上乙見地区等、豪雨による河川氾濫と家屋等への土砂流入の被害が発生した。この災害により京丹波町からの要請を受け、7月10日（火）から京丹波町災害ボランティアセンターを和知地区篠原体育館前に設置し、7月14日（土）までの5日間、町内のボランティアの方々を中心に支援活動に取り組んだ。

期間	7/10 (火)	7/11 (水)	7/12 (木)	7/13 (金)	7/14 (土)	合 計
個人	19人	29人	26人	2人	9人	85人
団体			2団体 (33人)	2団体 (20人)	2団体 (9人)	6団体 (62人)
小計	19人	29人	2団体 59人	2団体 22人	2団体 18人	6団体 147人



(2) 支援活動

町からの要請を受け、7月豪雨災害で被害を受け避難所での生活を余儀なくされた方へ7月9日(月)～13日(金)までの5日間、計134食の弁当(夕食)の配食を行った。

提供日	7/9 (月)	7/10 (火)	7/11 (水)	7/12 (木)	7/13 (金)	合計
配食数	29 食	26 食	26 食	26 食	27 食	134 食

(3) 他市町村社協災害ボランティアセンター支援

①平成30年7月豪雨災害(京都市市町村社協連合会派遣)

平成30年7月豪雨の支援活動として、市町村社協連合会(近畿ブロック)では、岡山県倉敷市真備町災害ボランティアセンターへ職員派遣が行われた。南丹ブロックに対して派遣要請があり、京丹波町社協からも被災地での災害ボランティアセンター運営支援のため職員を派遣した。

●京丹波町社協での職員派遣対応

第12クール(9月5日(水)～8日(土)) 湊純平(地域福祉課 和知支所長(係長))

②9月7日からの短期集中豪雨(亀岡市災害ボランティアセンターへの支援活動)

●物品の提供

亀岡市災害ボランティアセンターが非常時体制に移行し災害ボランティアの派遣を開始したことを受け、物品の提供(スポーツドリンク・お茶各1ケース)による支援を行った。

●職員有志による災害ボランティア活動

9月23日(日)に京丹波町社協有志3名が災害ボランティアを行った。(9/15(土)は雨天中止)

2 研修・講座

研修名	開催日	内容
平成30年度第1回京丹波町災害ボラセン運営検討会議	5/31(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター運営の説明と確認 ・平成29年度災害ボラセン町民講座の振り返り ・平成30年度災害ボラセン町民講座の検討 ・全体職員研修の検討
平成30年度京都府災害ボランティアセンター全体研修	6/9(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度総会および重点事業について ・京都府生活協同組合連合会の活動について ・グループワーク
八田サロン(防災学習)	7/21(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ハザードマップを用いた防災学習 ・災害ボランティアセンターの取組みについて ・平成30年7月豪雨について(DVDと講義) ・非常食試食体験
平成30年度京丹波町災害ボランティアセンター町民講座	9/1(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・佐用町社協江見地域福祉課副課長の講演 ・京丹波町総務課北村危機管理室長から災害発生時の京丹波町の対応について説明と報告 ・京丹波町災害ボランティアセンターから取り組みの説明と活動の報告
平成30年7月豪雨災害京都市町村社協連合会災害派遣	9/5(水)～8(土)	京都市市町村社協連合会の要請を受け岡山県倉敷市真備町へ職員1名を被災地へ派遣。災害ボランティアの派遣調整や災害ボランティアセンター運営の業務を担った。(3泊4日)

質志サロン（防災学習）	10/26 （金）	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ハザードマップを用いた防災学習 ・災害ボランティアセンターの取組みについて ・平成30年7月豪雨について（DVDと講義） ・非常食試食体験
平成30年度第2回京丹波町災害ボラセン運営検討会議	11/21（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨災害でのセンター運営についての振り返り ・平成30年度災害ボラセン町民講座の振り返り ・全体職員研修の検討
京都府災害ボランティアセンター研修会初動支援チームフォローアップ講座	11/22（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の災害支援の事例検証 ・各自の報告書作成とディスカッション ・模擬聞き取り等ワーク など
平成30年度第3回京丹波町災害ボラセン運営検討会議	1/24（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・全体職員研修の検討 役割や班分け、担当職員の動きなどの検討や確認などを行った。
平成30年度福祉避難サポートリーダー養成研修	1/31（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要配慮者対策 要配慮者支援のプロセスと概要 ・京都DWAT（災害派遣福祉チーム）の活動について ・防災活動を通して地域とのつながり など
災害ボランティアセンター立ち上げ訓練事前研修会	2/4（月）	災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を実施する前に、災害ボランティアセンタースタッフの役割や当日の動きなどの研修を行った。
京丹波町ヘルパーのつどい （町内事業所ホームヘルパーを対象に防災学習を行った）	2/21（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー向けの防災学習 ・災害ボランティアセンターの取組みについて ・平成30年7月豪雨について（DVDと講義） ・非常食試食体験
災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	2/24（日）	常勤職員（正職員・嘱託職員）を対象とした職員研修として実施。地震による広域災害を想定した災害ボランティアセンター（サテライトセンター）の立ち上げ訓練を実施した。
東かがわ市災害ボランティア活動連絡会視察研修の受け入れ	2/25（月）	視察の申し出を受け、平成30年7月豪雨災害の被害状況やセンター運営などについて説明した。
平成30年度京都府災害ボランティアセンターL0（調整員）養成講座	3/7（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月豪雨支援の概要説明 ・平常時・非常時の連携に関する問題提起 ・グループワーク など

【成果・課題】

- ・平成30年7月豪雨災害で和知地域の上乙見地区等、豪雨による河川氾濫と家屋等への土砂流入の被害が発生し、京丹波町からの要請を受け、7月10日（火）からの5日間、京丹波町災害ボランティアセンターを設置した。依頼があった28件の災害ニーズに対し、のべ147人の災害ボランティアを派遣し、被災支援を行った。
- ・京丹波町社会福祉協議会では、初めての災害ボランティアセンターの設置・運営であったが、参加いただいたボランティアの力により迅速に復旧支援活動を行うことができた。また運営についても京都府社協・京都府市町村社協連合会による派遣職員の協力を得て、円滑に被災者支援を行うことができた。
- ・課題としては、非常時の混乱の中でも迅速にセンターを立ち上げ、一刻も早く被災者支援を開始できる体制づくりを行うことが必要であると捉えている。